



# BEA WebLogic Integration™

**B2B Integration  
Administration  
Console オンライン  
ヘルプ**

## 著作権

Copyright © 2002, BEA Systems, Inc. All Rights Reserved.

## 限定的権利条項

本ソフトウェアおよびマニュアルは、BEA Systems, Inc. 又は日本ビー・イー・エー・システムズ株式会社（以下、「BEA」といいます）の使用許諾契約に基づいて提供され、その内容に同意する場合にのみ使用することができ、同契約の条項通りにのみ使用またはコピーすることができます。同契約で明示的に許可されている以外の方法で同ソフトウェアをコピーすることは法律に違反します。このマニュアルの一部または全部を、BEA Systems, Inc. からの書面による事前の同意なしに、複写、複製、翻訳、あるいはいかなる電子媒体または機械可読形式への変換も行うことはできません。

米国政府による使用、複製もしくは開示は、BEA の使用許諾契約、および FAR 52.227-19 の「Commercial Computer Software-Restricted Rights」条項のサブパラグラフ (c)(1)、DFARS 252.227-7013 の「Rights in Technical Data and Computer Software」条項のサブパラグラフ (c)(1)(ii)、NASA FAR 補遺 16-52.227-86 の「Commercial Computer Software--Licensing」条項のサブパラグラフ (d)、もしくはそれらと同等の条項で定める制限の対象となります。

このマニュアルに記載されている内容は予告なく変更されることがあり、また BEA による責務を意味するものではありません。本ソフトウェアおよびマニュアルは「現状のまま」提供され、商品性や特定用途への適合性を始めとする（ただし、これらには限定されない）いかなる種類の保証も与えません。さらに、BEA は、正当性、正確さ、信頼性などについて、本ソフトウェアまたはマニュアルの使用もしくは使用結果に関していかなる確約、保証、あるいは表明も行いません。

## 商標または登録商標

BEA、Jolt、Tuxedo、および WebLogic は BEA Systems, Inc. の登録商標です。BEA Builder、BEA Campaign Manager for WebLogic、BEA eLink、BEA Manager、BEA WebLogic Commerce Server、BEA WebLogic Enterprise、BEA WebLogic Enterprise Platform、BEA WebLogic Express、BEA WebLogic Integration、BEA WebLogic Personalization Server、BEA WebLogic Platform、BEA WebLogic Portal、BEA WebLogic Server、BEA WebLogic Workshop および How Business Becomes E-Business は、BEA Systems, Inc の商標です。

その他の商標はすべて、関係各社が著作権を有します。

## **BEA Integration Administration Console** オンライン ヘルプ

パート番号	日付	ソフトウェアのバージョン
なし	2002年8月	7.0 SP1

---

# 目次

## このマニュアルの内容

対象読者.....	viii
e-docs Web サイト.....	viii
このマニュアルの印刷方法.....	viii
関連情報.....	ix
サポート情報.....	ix
表記規則.....	x

## 1. WebLogic Integration B2B Console 入門

B2B Console とは.....	1-1
WebLogic Integration B2B Console の起動.....	1-3
ナビゲーション ツリーの使用.....	1-4
ポップアップ コンテキスト メニューの使用.....	1-4
リスト ボックスの選択と順序付け.....	1-5
変更の適用とエンティティの削除.....	1-5
エンティティの検索.....	1-6
[メモ] タブの使用.....	1-7

## 2. B2B Integration のコンフィグレーション

B2B Integration のパラメータの定義.....	2-2
セキュリティの定義.....	2-3
プロキシサーバの定義.....	2-5
リポジトリ データのインポート.....	2-5
[インポート] タブの使用.....	2-6
トランザクションレベルの設定.....	2-9
リポジトリ データのエクスポート.....	2-9
エクスポート範囲の選択.....	2-12
エクスポート フォーマットの選択.....	2-12
[プリファレンス] の設定.....	2-13
高度なシステム コンフィグレーション機能を表示する.....	2-16
1 ページに表示される項目数の制御.....	2-16
ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示.....	2-17

B2B Integration のパフォーマンスの制御 .....	2-17
高度なトレーディング パートナのコンフィグレーション オプションの使用. 2-18	
トレーディング パートナの XOCP フィルタおよびルータのコンフィグ レーション (非推奨) .....	2-18
トレーディング パートナの XOCP フィルタまたはルータの削除 .....	2-19
トレーディング パートナの拡張プロパティのコンフィグレーション .....	2-20
トレーディング パートナへの拡張プロパティの追加 .....	2-22
トレーディング パートナからの拡張プロパティの削除 .....	2-22

### 3. トレーディング パートナのコンフィグレーション

トレーディング パートナのコンフィグレーションの概要 .....	3-1
トレーディング パートナの作成 .....	3-2
トレーディング パートナの修正 .....	3-4
トレーディング パートナの削除 .....	3-5
トレーディング パートナ パーティ ID のコンフィグレーション .....	3-5
新しいパーティ ID の作成 .....	3-5
パーティ ID の修正 .....	3-7
パーティ ID の削除 .....	3-7
トレーディング パートナの証明書のコンフィグレーション .....	3-8
証明書参照の追加、および証明書のキーストアへのインポート .....	3-9
証明書参照の削除 .....	3-13
トレーディング パートナのドキュメント交換のコンフィグレーション ...	3-14
ドキュメント交換のための cXML のコンフィグレーション (非推奨) ... 3-15	
ドキュメント交換のための RosettaNet 1.1 のコンフィグレーション ..	3-16
ドキュメント交換のための RosettaNet 2.0 のコンフィグレーション ..	3-19
ドキュメント交換のための XOCP 1.1 のコンフィグレーション (非推奨) 3-22	
ドキュメント交換のための ebXML 1.0 のコンフィグレーション .....	3-25
ドキュメント交換の削除 .....	3-27
トレーディング パートナ転送のコンフィグレーション .....	3-28
新しい転送の作成 .....	3-29
転送の修正 .....	3-30
転送の削除 .....	3-31
トレーディング パートナの配信チャネルのコンフィグレーション .....	3-32

配信チャネルの修正 .....	3-33
配信チャネルの削除 .....	3-34
<b>4. 会話のコンフィグレーション</b>	
会話のコンフィグレーションの概要 .....	4-1
会話定義の作成 .....	4-2
会話定義の修正 .....	4-4
会話定義の削除 .....	4-5
<b>5. コラボレーション アグリーメントのコンフィグレーション</b>	
コラボレーション アグリーメントの作成 .....	5-2
コラボレーション アグリーメントの修正 .....	5-3
コラボレーション アグリーメントの削除 .....	5-4
コラボレーション アグリーメントのパーティのコンフィグレーション .....	5-4
コラボレーション アグリーメントのパーティの修正 .....	5-6
コラボレーション アグリーメントのパーティの削除 .....	5-7
コラボレーション アグリーメントの有効化と登録 .....	5-8
<b>6. ロジック プラグインの使用</b>	
ロジック プラグインの作成 (非推奨) .....	6-2
ロジック プラグインの修正 (非推奨) .....	6-3
ロジック プラグインの削除 (非推奨) .....	6-4
<b>7. ビジネス プロトコルのコンフィグレーション</b>	
ビジネス プロトコルのコンフィグレーションの概要 .....	7-1
ビジネス プロトコル定義の表示 .....	7-2
ユーザ定義のフィルタ チェーンおよびルータ チェーンの修正 .....	7-3
XOCP フィルタ式および XOCP ルータ式の修正 (非推奨) .....	7-5
XPath 式の作成 .....	7-7
ビジネス プロトコル定義からの XPath 式の削除 .....	7-8
ビジネス プロトコル定義の詳細の表示 .....	7-9
<b>8. B2B Integration のモニタ</b>	
B2B エンジンのモニタ .....	8-1
B2B エンジンのシャットダウン .....	8-2
B2B Integration の統計値の表示 .....	8-3
B2B Integration のログの表示 .....	8-5

トレーディング パートナのモニタ .....	8-6
トレーディング パートナのセッション会話のモニタ .....	8-7
トレーディング パートナのアクティブな配信チャネルのリスト .....	8-8
トレーディング パートナの配信チャネルのモニタ .....	8-9
トレーディング パートナの配信チャネルのシャットダウン .....	8-10
トレーディング パートナセッションのモニタ .....	8-11
トレーディング パートナセッションのリスト .....	8-13
会話定義の会話のリスト .....	8-13
トレーディング パートナの会話のリスト .....	8-15
配信チャネルの会話のリスト .....	8-15
配信チャネルのアクティブなコラボレーション アグリーメントのリスト	
8-16	
配信チャネルのトレーディング パートナ セッションのリスト .....	8-17
配信チャネルのコラボレーション アグリーメントの詳細の表示 .....	8-18
会話定義のモニタ .....	8-19
コラボレーション アグリーメントのモニタ .....	8-20
コラボレーション アグリーメントの有効化 .....	8-21
コラボレーション アグリーメントの無効化 .....	8-22
コラボレーション アグリーメントの登録解除 .....	8-23
コラボレーション アグリーメントのアクティブ化 .....	8-24

## 索引

---

# このマニュアルの内容

このオンライン ヘルプでは、BEA WebLogic Integration™ B2B Console を使用して B2B Integration をコンフィグレーション、モニタ、および管理する方法について説明します。

このマニュアルの内容は以下のとおりです。

- 第 1 章「WebLogic Integration B2B Console 入門」では、B2B Console のユーザ インタフェースについて概説します。
- 第 2 章「B2B Integration のコンフィグレーション」では、B2B Integration を設定およびコンフィグレーションする方法について説明します。
- 第 3 章「トレーディング パートナのコンフィグレーション」では、トレーディング パートナの管理に必要な手順と情報について説明します。
- 第 4 章「会話のコンフィグレーション」では、会話定義を設定する方法について説明します。
- 第 5 章「コラボレーション アグリーメントのコンフィグレーション」では、コラボレーション アグリーメントを使用してトレーディング パートナによるデータ交換を可能にする方法について説明します。
- 第 6 章「ロジック プラグインの使用」では、B2B Integration メッセージのルーティングおよびフィルタ処理を定義付けできる Java クラスを作成する方法について説明します。
- 第 7 章「ビジネス プロトコルのコンフィグレーション」では、使用できるビジネス プロトコルの使い方と、プロトコル定義をユーザが作成したロジック プラグインにマップする方法について説明します。
- 第 8 章「B2B Integration のモニタ」では、B2B Integration 環境におけるプロセスとイベントをトラッキングする方法について説明します。

---

# 対象読者

このマニュアルは、BEA WebLogic Integration を管理およびコンフィグレーションするシステム管理者を対象としています。

## e-docs Web サイト

BEA 製品のドキュメントは、BEA Systems, Inc. の Web サイトで入手できます。BEA のホーム ページで [製品のドキュメント] をクリックするか、または「e-docs」という製品ドキュメント ページ (<http://edocs.beasys.co.jp/e-docs/index.html>) を直接表示してください。

## このマニュアルの印刷方法

Web ブラウザの [ファイル | 印刷] オプションを使用すると、Web ブラウザからこのマニュアルを一度に 1 ファイルずつ印刷できます。

このマニュアルの PDF 版は、Web サイトで入手できます。WebLogic IntegrationPDF を Adobe Acrobat Reader で開くと、マニュアルの全体（または一部分）を書籍の形式で印刷できます。PDF を表示するには、WebLogic Integration ドキュメントのホーム ページを開き、[PDF 版] ボタンをクリックして、印刷するマニュアルを選択します。

Adobe Acrobat Reader がない場合は、Adobe の Web サイト (<http://www.adobe.co.jp/>) で無料で入手できます。

---

## 関連情報

WebLogic Integration の管理についての詳細は、WebLogic Integration のマニュアル、特に『*B2B Integration 入門*』と『*B2B Integration 管理ガイド*』を参照してください。

## サポート情報

BEA WebLogic Integration のドキュメントに関するユーザからのフィードバックは弊社にとって非常に重要です。質問や意見などがあれば、電子メールで **docsupport-jp@bea.com** までお送りください。寄せられた意見については、WebLogic Integration のドキュメントを作成および改訂する BEA の専門の担当者が直に目を通します。

電子メールのメッセージには、BEA WebLogic Integration 7.0 リリースのドキュメントをご使用の旨をお書き添えください。

本バージョンの BEA WebLogic Integration について不明な点がある場合、または BEA WebLogic Integration のインストールおよび動作に問題がある場合は、BEA WebSupport (**websupport.bea.com/custsupp**) を通じて BEA カスタマサポートまでお問い合わせください。カスタマサポートへの連絡方法については、製品パッケージに同梱されているカスタマサポート カードにも記載されています。

カスタマサポートでは以下の情報をお尋ねしますので、お問い合わせの際はあらかじめご用意ください。

- お名前、電子メール アドレス、電話番号、ファクス番号
- 会社の名前と住所
- お使いの機種とコード番号
- 製品の名前とバージョン
- 問題の状況と表示されるエラー メッセージの内容

---

# 表記規則

このマニュアルでは、全体を通して以下の表記規則が使用されています。

表記法	適用
太字	用語集で定義されている用語を示す。
[Ctrl] + [Tab]	複数のキーを同時に押すことを示す。
斜体	強調または書籍のタイトルを示す。
等幅テキスト	コード サンプル、コマンドとそのオプション、データ構造体とそのメンバー、データ型、ディレクトリ、およびファイル名とその拡張子を示す。等幅テキストはキーボードから入力するテキストも示す。 <i>例</i> <pre>#include &lt;iostream.h&gt; void main ( ) the pointer psz chmod u+w * \tux\data\ap .doc tux.doc BITMAP float</pre>
太字の等幅 テキスト	コード内の重要な箇所を示す。 <i>例</i> <pre>void <b>commit</b> ( )</pre>
斜体の等幅 テキスト	コード内の変数を示す。 <i>例</i> <pre>String <i>expr</i></pre>

表記法	適用
すべて大文字のテキスト	デバイス名、環境変数、および論理演算子を示す。 <i>例</i> LPT1 SIGNON OR
{ }	構文の中で複数の選択肢を示す。実際には、この括弧は入力しない。
[ ]	構文の中で任意指定の項目を示す。実際には、この括弧は入力しない。 <i>例</i> buildobjclient [-v] [-o name ] [-f file-list]...[-l file-list]...
	構文の中で相互に排他的な選択肢を区切る。実際には、この記号は入力しない。
...	コマンドラインで以下のいずれかを示す。 ◆ 引数を複数回繰り返すことができる ◆ 任意指定の引数が省略されている ◆ パラメータや値などの情報を追加入力できる 実際には、この省略記号は入力しない。 <i>例</i> buildobjclient [-v] [-o name ] [-f file-list]...[-l file-list]...
.	コード サンプルまたは構文で項目が省略されていることを示す。 実際には、この省略記号は入力しない。



---

# 1 WebLogic Integration B2B Console 入門

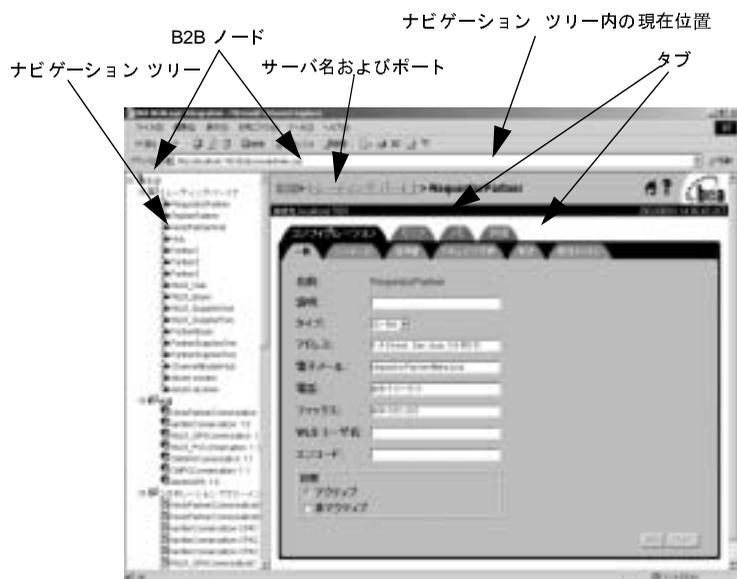
以下の節では、WebLogic Integration B2B Console にログオンして、使い始める方法について説明します。内容は以下のとおりです。

- B2B Console とは
- WebLogic Integration B2B Console の起動
- エンティティの検索
- [メモ] タブの使用

## B2B Console とは

WebLogic Integration B2B Console は、B2B Integration の保守と実行に必要な管理機能への、グラフィカルな Web ベースのインタフェースです。WebLogic Integration B2B Console のホーム ページは、WebLogic Server Administration Console のホーム ページに類似しています。つまり、次の図で示すように、縦に置かれた 2 つのペインを含むウィンドウです。

図 1-1 B2B Integration のナビゲーション ツリーとタブ



**注意：** ナビゲーション ツリーを展開したり折り畳んだりして、各ノードの下にリストされた項目を表示したり非表示にしたりする手順については、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」を参照してください。

左側のペインには、ナビゲーション ツリーが表示されます。これは B2B Integration によってリンクされているエンティティ（トレーディング パートナなど）を表す、階層的に配置されたノードの集合です。右側のペインには、ナビゲーション ツリー内のノードで表されるエンティティの管理に使用する、対話型のページが表示されます。Console ではタブ付きのファイル フォルダとして図示されるこれらのページは、「タブ」とも呼ばれます。

# WebLogic Integration B2B Console の起動

WebLogic Integration B2B Console を起動するには、先に WebLogic Integration を起動する必要があります。ドメインに対して `startWeblogic.cmd` コマンド (Windows) または `startWeblogic` コマンド (UNIX) を実行すると、WebLogic Server が起動し、ドメインの `config.xml` ファイルで指定した WebLogic Integration アプリケーションおよびリソースがサーバにデプロイされます。WebLogic Integration の起動の詳細については、『*WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ*』の「はじめに」の、「WebLogic Integration の起動」を参照してください。

WebLogic Integration B2B Console を起動するには、次の作業が必要です。

1. 使用している環境に適したコマンドを実行します。

Windows NT または Windows 2000 の場合、次のいずれかを実行します。

- [スタート | BEA WebLogic Platform 7.0 | WebLogic Integration 7.0 | B2B Console] を選択する。
- Web ブラウザで次の URL を入力する。  
`http://localhost:7001/b2bconsole`

UNIX の場合

- Web ブラウザで次の URL を入力する。  
`http://localhost:7001/b2bconsole`

2. B2B Console のログイン ウィンドウが表示されたら、WebLogic Integration のインストール時と同じように、自分の ID とパスワードを入力します。B2B Console のホーム ページが表示されます。詳細については、『*WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ*』の「WebLogic Integration 管理ツールと設計ツール」の、「B2B Console の起動」を参照してください。

## ナビゲーション ツリーの使用

**注意:** ナビゲーション ツリーに多数のエンティティ（トレーディング パートナなど）を表示すると、B2B Console のパフォーマンスが低下する可能性があるため、ナビゲーション ツリーのエンティティ表示は、デフォルトでは無効になっています。

ナビゲーション ツリーでエンティティのリストを表示するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリー最上端の **[B2B]** ノードをクリックします。
2. **[コンフィグレーション]** タブ、**[プリファレンス]** タブの順に選択します。
3. **[ナビゲーション ツリー上のエンティティを表示]** エンティティを選択します。個々のエンティティが、ナビゲーション ツリーに表示されます。

特定のエンティティを制御するパラメータにアクセスするには、ナビゲーション ツリー内でそのエンティティのノードをクリックします。選択したエンティティのコンフィグレーション ページが、コンソール ウィンドウの右ペインに表示されます。

## ポップアップ コンテキスト メニューの使用

ナビゲーション ツリーでノードを右クリックすると、以下のコマンドが書かれたポップアップ メニューが表示されます。

表 1-1 ポップアップ コンテキスト メニューのコマンド

コマンド	説明
<b>[新規ウィンドウで開く]</b>	指定したエンティティの対話型ウィンドウを開く。ナビゲーション ツリーは表示されない。

表 1-1 ポップアップ コンテキスト メニューのコマンド

コマンド	説明
[新しい**の作成]	このコマンドにより、選択したノードの新規インスタンスを作成できるページが表示される。たとえば、[トレーディング パートナ] ノードを右クリックしてメニューから [新しいトレーディング パートナの作成] を選択した場合を考える。[新しいトレーディング パートナ] ダイアログ ボックスが表示され、新しいトレーディング パートナの作成を求められる。 新しいトレーディング パートナを作成するには、ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] ノードを選択し、右ペインで [新しいトレーディング パートナの作成] のリンクをクリックしてもよい。新しい [トレーディング パートナ] ダイアログ ボックスが表示され、新しいトレーディング パートナの作成を求められる。

## リスト ボックスの選択と順序付け

ダイアログ ボックスの中には、エンティティをフィールド間で移動することによって転送できるものがあります。

- リスト間でエンティティを移動するには、右矢印ボタンおよび左矢印ボタンを使用します。
- リスト内のエンティティの順序を変更するには、上矢印ボタンおよび下矢印ボタンを使用します。

## 変更の適用とエンティティの削除

WebLogic Integration B2B Console でリストされているエンティティは、変更したり、リストから削除したりできます。

エンティティのプロパティを修正するときには、[設定] をクリックして属性のプロパティを修正します。プロパティの修正が終わったら、[追加/適用] をクリックして変更を行います。

リストからエンティティを削除するには、適切なリスト内のエンティティを選択して、[削除]をクリックします。状況によっては、エンティティを無効化することもできます。詳細については、8-10 ページの「トレーディング パートナの配信チャネルのシャットダウン」を参照してください。

エンティティプロパティの修正、およびエンティティの削除と無効化の手順については、このマニュアルの該当する節で説明しています。

# エンティティの検索

WebLogic Integration B2B Console では、以下のエンティティを名前で検索できます。

- トレーディング パートナ
- 会話定義
- コラボレーション アグリーメント
- ビジネス プロトコル定義
- ロジック プラグイン

B2B Console に対しエンティティに関するクエリを行う場合、そのエンティティは、以下のパターン マッチング方法のいずれかを使用して指定できます。

- 完全な名前の入力
- \*を使った、名前の中の任意の文字シーケンスとの照合
- ?を使った、名前の中の 1 文字との照合

たとえば、ABCD という名前は、以下の文字列のいずれかによって検索できません。

- ABCD
- AB\*
- AB?D
- A???
- \*
- \*CD

■ ??CD

エンティティを検索するには、以下の作業が必要です。

1. 目的のエンティティのノードをクリックします。既存のエンティティのリストが、検索フィールドと共に表示されます。
2. 検索フィールドに、キーワードまたは部分的なテキスト文字列を入力します。[ 検索 ] をクリックします。一致すると考えられる項目のリストが表示されます。
3. 目的のエンティティを選択します。

## [ メモ ] タブの使用

WebLogic Integration B2B Console では、各エンティティについて [ メモ ] タブが設けられています。このタブから、関連機能を説明できるダイアログ ボックスにアクセスできます。各 [ メモ ] タブは独立しており、その場所に関連する情報を格納します。この情報は、複数のログイン セッション間でも持続します。



---

## 2 B2B Integration のコンフィグレーション

WebLogic Integration B2B Console を使用すると、メッセージングやセキュリティなど、B2B Integration のいくつかの面を管理するパラメータを制御できます。また、リポジトリから XML ファイルをインポートおよびエクスポートしたり、B2B Console のエンティティの表示をカスタマイズしたり、他のオプションを指定したりできます。

ここでは、以下の内容を取り上げます。

- B2B Integration のパラメータの定義
- セキュリティの定義
- プロキシサーバの定義
- リポジトリデータのインポート
- リポジトリデータのエクスポート
- [プリファレンス] の設定
- 高度なトレーディング パートナのコンフィグレーション オプションの使用

## B2B Integration のパラメータの定義

B2B Integration のコンフィグレーションの詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

WebLogic Integration B2B Console のコンフィグレーションを行うには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。右ペインに **[コンフィグレーション]** タブが表示されます。
2. **[一般]** タブを選択します。このタブには、以下のフィールドが表示されています。

表 2-1 B2B Integration の **[一般]** タブのフィールド

フィールド	説明
<b>[WLI B2B の名前]</b>	現在の WebLogic Integration B2B 名の読み取り専用フィールド。
<b>[説明]</b>	アクティブな B2B エンジンの簡単な説明（254 文字以下）（省略可）。

表 2-1 B2B Integration の [一般] タブのフィールド (続き)

フィールド	説明
[大規模メッセージサポート]	<p><b>[大規模メッセージサポートの使用]</b> スループットを向上させる大規模メッセージサポートを有効化するフィールド。デフォルトでは、すべてのメッセージはデータベースに書き込まれる。大規模メッセージサポートを有効にすると、すべてのメッセージがデータベースではなくファイルシステムに書き込まれるようにできる。</p> <p><b>注意：</b> 多数の大規模なメッセージをデータベースに書き込むと、実行時のパフォーマンスが低下する可能性がある。</p>
	<p><b>[位置]</b> 大規模メッセージサポートを使用する場合に、作業ファイルが格納されているディレクトリのパスを入力する。</p> <p><b>警告：</b> 指定するディレクトリは既存のもので、<b>B2B Integration</b> メッセージ用に予約されている必要がある。</p>
	<p><b>[最小サイズ]</b> 大規模メッセージサポートを使用する場合に、大規模メッセージサポートを有効化する対象となるメッセージに必要な最小限のサイズを示す (デフォルトは <b>0 Kb</b>)。</p>

- 必要に応じて、適切なフィールドを修正します。
- [適用] をクリックします。[一般] タブに表示された値が、リポジトリに入力されます。

## セキュリティの定義

WebLogic Server および B2B Integration のセキュリティに関する詳細は、『*B2B Integration セキュリティの実装*』の「セキュリティのコンフィグレーション」を参照してください。

セキュア監査ログをコンフィグレーションするには、次の作業が必要です。

- ナビゲーションツリーの最上位ノードである [B2B] をクリックします。[コンフィグレーション] タブが表示されます。

2. [セキュリティ] タブを選択します。このタブには、以下のフィールドが表示されています。

**表 2-2 セキュリティ フィールド**

フィールド	説明
<b>[システム パスワード]</b>	WebLogic Integration 実行時環境のユーザ パスワード。システム パスワードの詳細については、『 <i>WebLogic Integration の起動、停止およびカスタマイズ</i> 』を参照。
<b>[監査ログ クラス]</b>	セキュア監査ログを実装する Java クラスの完全修飾名。
<b>[証明書検証クラス]</b>	セキュリティ検証クラスを実装する Java クラスの完全修飾名。
<b>[セキュア タイムスタンプ クラス]</b>	セキュア タイムスタンプ クラスを実装する Java クラスの完全修飾名。
<b>[認証局のディレクトリ]</b>	信頼性のある全認証局 (CA) の証明書を格納しているディレクトリ。

3. 必要に応じて、適切なフィールドを修正します。
4. [適用] をクリックします。タブに表示された値が、リポジトリに入力されます。

# プロキシ サーバの定義

プロキシ サーバを定義するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。 **B2B Integration** の **コンフィグレーション** および **モニタ** のタブが表示されます。
2. **[プロキシ]** タブを選択します。このタブには、以下のフィールドが表示されています。

表 2-3 **[プロキシ]** タブのフィールド

フィールド	説明
<b>[ホスト]</b>	プロキシ サーバの HTTP アドレス。たとえば、 <code>http://myproxy.mycompany.com</code>
<b>[ポート]</b>	プロキシ サーバのポート番号。

3. 必要に応じて、適切なフィールドを修正します。
4. **[適用]** をクリックします。 **[プロキシ]** タブに表示された値が、リポジトリに入力されます。

## リポジトリ データのインポート

WebLogic Integration のインストール後、以下の方法のいずれかで、データベースにデータを供給できます。

- **WebLogic Integration B2B Console** を使って、各エンティティのデータを手動で入力します（エンティティには、たとえば **トレーディング パートナ**、**会話**、**コラボレーション アグリーメント**、および **ビジネス プロトコル** などが含まれます）。詳細については、該当するエンティティの **オンライン ヘルプ** を参照してください。
- **Bulk Loader** を使用してデータをインポートします。 **Bulk Loader** は **XML コンフィグレーション ファイル** を使用してデータベースへのロードを行います。

す。詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「Bulk Loader の操作」を参照してください。

**注意：** WebLogic Server ユーザをインポートする必要がある場合は、次の方法を使用します（Bulk Loader を使用してデータをインポートする場合、WebLogic Server ユーザはインポートされません）。

- WebLogic Integration B2B Console を使って、リポジトリのバックアップ コピーからデータをインポートします。バックアップ ファイルは、XML フォーマットです。この方法については、2-6 ページの「[ インポート ] タブの使用」で説明しています。リポジトリのバックアップ コピー作成の詳細については、2-9 ページの「リポジトリ データのエクスポート」を参照してください。

**注意：** リポジトリ データをインポートする前に、Windows メニューの [ シャットダウン ] コマンドを使用して、B2B エンジン（サーバ）をシャットダウンする必要があります。B2B エンジンの実行中は、データのインポートはできません。

## [ インポート ] タブの使用

リポジトリ データをインポートするには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーションツリーの最上位ノードである [B2B] をクリックします。右ペインに [ コンフィグレーション ] タブが表示されます。
2. [ インポート ] タブを選択します。このタブには、以下のフィールドが表示されています。

表 2-4 [ インポート ] タブのフィールド

フィールド	説明
[ ファイル名 ]	<p>インポートするリポジットリ データ XML ファイルの絶対パス。パス名をフィールドに入力することも、[ 参照 ] をクリックして適切なファイルを選択することもできる。</p> <p>エンティティ別のファイル（トレーディング パートナ、コラボレーション アグリーメント、会話などだけを含むもの）をインポートすることも、すべての B2B Integration エンティティを含むリポジットリ データファイルをインポートすることもできる。</p>
[ データベースの初期化 ]	<p>リポジットリ データを初期化するかどうかを指定するフィールド。</p> <p><b>警告:</b>[ データベースの初期化 ] オプションを選択すると、その後リポジットリ データをインポートする際に、既存のデータは破棄される。[ データベースの初期化 ] オプションの選択は慎重に行う必要がある。</p>
[Yes]	<p>インポート中に、リポジットリから既存の B2B Integration データを消去する。つまり、インポートされたデータにより、既存の全データが上書きされる。</p> <p>[Yes] を選択すると、インポート中にその選択の確認を求められる。</p>
[No]	<p>インポート中、既存の B2B Integration データを保持する。つまり、インポートされたデータは、既存のデータに追加される。ただし、既にリポジットリ内に存在する要素および属性がインポートされるデータに記述されていた場合、これら特定の値についてはインポートされるデータが既存のデータを上書きする（デフォルト設定は [No]）。</p>

表 2-4 [インポート] タブのフィールド (続き)

フィールド	説明
[トランザクションレベル]	インポート中にエラーが発生した場合の、システムによるインポートのロールバック方式を決定するパラメータ。  <b>[All]</b> コンフィグレーション データを含むリポジトリ データを 1 回のトランザクションでインポートする (このオプションは、小規模なリポジトリに適している)。 データ ファイル内に登場する <b>B2B Integration</b> エンティティのいずれかで無効なデータが検出されると、 <b>Bulk Loader</b> ユーティリティはトランザクション全体をロールバックして、停止する。リポジトリはインポート前とまったく同じ状態で保持され、削除または追加されたデータはない。  <b>[Default]</b> コンフィグレーション データを含むリポジトリ データを複数のトランザクションでインポートする (このオプションは、大規模なリポジトリに適している)。 このオプションを選択した場合、インポートによりトレーディング パートナ、会話定義、コラボレーション アグリーメント、ビジネス プロトコル定義、およびロジック プラグインの各エンティティに対しトランザクションが開始される。エンティティのいずれかに対するトランザクション中に無効なデータが検出されると、インポートは現行のトランザクションについてのみロールバックされ、次のトランザクションでのインポートは続行される。

3. 必要に応じて、適切なフィールドを修正します。
4. [インポート] ボタンをクリックします。[インポート] タブに表示されたデータが、リポジトリにインポートされます。
5. これで、**Windows** メニューから **B2B 起動コマンド** を選択することによって、**B2B エンジン** (サーバ) を再起動できます。

## トランザクション レベルの設定

トランザクション レベルは、リポジトリ データのインポート方式を制御し、インポート中にエラーが発生した場合の、システムによるインポートのロールバック方式を決定します。

トランザクション レベルを設定するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。右ページに **[コンフィグレーション]** タブが表示されます。
2. **[インポート]** タブを選択します。**[トランザクション レベル]** フィールドで、**[Default]** または **[All]** を選択します。これらの値については、表 2-4 を参照してください。

## リポジトリ データのエクスポート

リポジトリから既存のデータを XML ファイルとしてエクスポートできます。この手法は、データを別のリポジトリにインポートしたり、別のデータベースで使用する場合に役立ちます。また、リポジトリ内のさまざまな要素をエクスポート可能です。エクスポートする各要素について、要素を選択し、その要素がエクスポートされる XML ファイルに一意的な名前を割り当てます。詳細については、2-5 ページの「リポジトリ データのインポート」を参照してください。

リポジトリ データをエクスポートするには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。右ページに **[コンフィグレーション]** タブが表示されます。
2. **[エクスポート]** タブを選択します。このタブには、以下のフィールドが表示されています。

表 2-5 リポジトリ データのエクスポート

フィールド	説明
<b>[エクスポートする範囲]</b>	エクスポートするデータの指定。データをエクスポートするときには、一度に1つのXMLファイルしか作成できない。XMLファイルには、すべてのリポジトリ データを含めることも、指定したエンティティのデータのみを含めることもできる。
<b>[すべて]</b>	コンフィグレーション データを含む、B2B Integration リポジトリの全データ。
<b>[B2B]</b>	[コンフィグレーション] タブに記載されているコンフィグレーション要素。エクスポートするエンティティのインスタンスを選択するには、[参照] をクリックする。
<b>[トレーディング パートナ]</b>	トレーディング パートナ関連の全データ要素。エクスポートするエンティティのインスタンスを選択するには、[参照] をクリックする。
<b>[会話定義]</b>	会話定義関連の全データ要素。エクスポートするエンティティのインスタンスを選択するには、[参照] をクリックする。
<b>[コラボレーション アグリーメント]</b>	コラボレーション アグリーメント関連の全データ要素。エクスポートするエンティティのインスタンスを選択するには、[参照] をクリックする。
<b>[ビジネス プロトコル定義]</b>	ビジネス プロトコル定義関連の全データ要素。エクスポートするエンティティのインスタンスを選択するには、[参照] をクリックする。
<b>[ロジック プラグイン]</b>	ロジック プラグイン関連の全データ要素。

表 2-5 リポジットリ データのエクスポート (続き)

フィールド	説明
[フォーマット]	メタデータを、リポジットリ データがエクスポートされている状態でエクスポートするかどうかを示す。 <b>Bulk Loader</b> のフォーマットに関する詳細については、『 <i>B2B Integration 管理ガイド</i> 』の「 <b>Bulk Loader</b> の操作」を参照。
[拡張]	リポジットリ データと、 <code>update-count</code> や <code>timestamps</code> などのシステム情報の両方をエクスポートする要求。データを別のシステムまたは環境に移行しようとしている場合は、[拡張]を選択する。
[標準]	リポジットリ データのみをエクスポートする要求。リポジットリのバックアップを取ったり、リポジットリを別のデータベースにインポートしようとしている場合は、[標準]を選択する。
[ビジネス接続エクスポートファイル]	WebLogic Integration - Business Connect フォーマットによるエクスポート ファイルを作成する。このエクスポート ファイルは、単独のトレーディング パートナに関する情報を WebLogic Integration リポジットリから WebLogic Integration - Business Connect 軽量クライアントにエクスポートする場合に使用される。このオプションの使用は、ebXML ビジネス プロトコルを使用している場合に限られる。
[エンコード]	<p>WebLogic Integration リポジットリのエクスポート中に使用されるエンコードの種類。エンコードを指定すると、生成される XML データには、たとえば次のような、エンコードを定義する行が含まれる。</p> <pre>encoding="GB2312"</pre> <p>この例では、中国語のエンコードとして、<b>GB2312</b> が指定されている。エンコードを指定していないと、生成される XML データにはエンコード フィールドが含まれない (省略可)。詳細については、『<i>B2B Integration 管理ガイド</i>』の「コンフィグレーション要件」の、「トレーディング パートナのエンコーディングに関する注意」を参照。</p>
[すべての参照済みエンティティをエクスポート]	明示的にエクスポートされているエンティティと共に、これらのエンティティによって参照される全エンティティを自動的にエクスポートする要求。詳細については、2-12 ページの「エクスポート範囲の選択」を参照してください。

3. 必要に応じて、適切なフィールドを修正します。
4. [ エクスポート ] をクリックします。
5. 全エクスポートの範囲について、デフォルト設定 ([ すべて ]) を復元したい場合は、[ リセット ] オプションを選択します (省略可)。

詳細については、*B2B Integration 管理ガイド*の「Bulk Loader の操作」を参照してください。

## エクスポート範囲の選択

リポジトリからデータをエクスポートするときに、従属するデータの検索要求オプションを選択できます。たとえば、コラボレーション アグリーメントをエクスポートする場合に、[ 参照 ] ダイアログ ボックスで、参照されたオブジェクトのエクスポートも要求すると、エクスポート対象には、選択したコラボレーション アグリーメント、これらのアグリーメントによって参照されるトレーディング パートナ、およびこれらのトレーディング パートナによって参照されるビジネス プロトコル定義が含まれます。ここでは、[ エクスポート ] タブの [ エクスポートする範囲 ] フィールドにおいて選択されているのは [ コラボレーション アグリーメント ] のみですが、参照されたオブジェクトも一緒にエクスポートされます。

**B2B Integration** データをエクスポートするときには、異なったデータを含む複数の XML ファイルを作成できます。すべてのリポジトリ データを含む XML ファイルを作成することも、指定したエンティティに関連するデータのみを含む XML ファイルを作成することも可能です。

[ エクスポート ] タブで、[ 参照 ] を選択してインスタンスのリストを表示します。エクスポートするインスタンスを選択します。選択したデータの型に応じて、特定のオプションのアクティブ、非アクティブが異なる場合があります。

## エクスポート フォーマットの選択

**WebLogic Integration** ではデータのエクスポートを、`update-count` 変数および `timestamps` 変数などのシステム情報付きでも、これらの情報なしでも、行うことができます。

以下のフォーマットからいずれか 1 つを指定します。

- [標準]—リポジトリ データのみをエクスポートします。
- [拡張]—リポジトリ データとシステム情報の両方をエクスポートします。
- [ビジネス接続エクスポート ファイル]—単独のトレーディング パートナに関する情報を WebLogic Integration リポジトリから WebLogic Integration - Business Connect にエクスポートします (ebXML プロトコルでのみ使用可能)。

**注意：** データを別のシステムまたは環境に移行しようとしている場合のみ、[拡張] フォーマットを使用します。

## [プリファレンス] の設定

[プリファレンス] タブで、WebLogic Integration B2B Console におけるエンティティの表示方法をコンフィグレーションできます。

[プリファレンス] の設定を行うには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの最上位ノードである [B2B] をクリックします。[コンフィグレーション] タブが表示されます。
2. [プリファレンス] タブを選択します。このタブには、以下のフィールドが表示されています。

表 2-6 [プリファレンス] タブのフィールド

フィールド	説明
[1 ページに表示するアイテム数] (1 - 50)	B2B Console の各ページに表示されるレコードの数。上限は 50、下限は 1。デフォルト設定は 5。
[再試行のデフォルト値]	WebLogic Integration にメッセージ送信を試行させる回数。デフォルトは 3。
[再試行のデフォルト時間間隔]	WebLogic Integration がメッセージを再送信するまでの待機時間。デフォルトは 5000 ミリ秒。

表 2-6 [プリファレンス] タブのフィールド (続き)

フィールド	説明
<b>[ デフォルトのタイムアウト値 ]</b>	トランザクションの有効期間の長さ (日数、時間数、分数、秒数で指定)。この期間が過ぎると、未処理のメッセージがあっても <b>WebLogic Integration</b> はトランザクションを終了する。デフォルトは <b>5000</b> ミリ秒 (省略可)。
<b>[ 言語 ]</b>	<p><b>WebLogic Integration B2B Console</b> で入力に使用される自然言語。デフォルトは <b>[English (UTF-8)]</b>。その他の選択肢としては、<b>[ デフォルト ]</b>、<b>[Chinese]</b>、および 2 種類の <b>[Japanese]</b> がある。使用言語がリスト内にはない場合は、<b>[ デフォルト ]</b> を選択すると、システムで設定されているデフォルトの地域設定が使用される。</p> <p><b>注意:</b> <b>[ 言語 ]</b> フィールドを <b>[ デフォルト ]</b> に設定する場合は、<b>[ デフォルト言語の文字セット ]</b> フィールドで、使用している文字セットを指定する必要がある。</p>
<b>[ デフォルト言語の文字セット ]</b>	データの表示と入力に使用するデフォルトの言語として設定される文字セットを指定する。
<b>[ 拡張コンフィグレーションコントロールを表示 ]</b>	<p>コンフィグレーション タブでロジック プラグインを表示するかどうかを指定するフィールド。このオプションを有効にすると、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ <b>[ トレーディング パートナ詳細 ]</b> タブが表示される。</li> <li>◆ ナビゲーション ツリーで、<b>[ ロジック プラグイン ]</b> ノードが表示される。</li> <li>◆ ビジネス プロトコル定義のリスト (<b>[ ビジネス プロトコル ]</b> ノードに表示) が編集できるようになる。無効にすると、リストは表示されるが、定義にロジック プラグインを追加できない。</li> </ul>
<b>[ ナビゲーション ツリー上のエンティティを表示 ]</b>	<p>トレーディング パートナなど個々のエンティティを、ナビゲーション ツリーの最上位ノードの下の分岐として表示するかどうかを制御するフィールド。</p> <p><b>注意:</b> ナビゲーション ツリーに多数のエンティティ (トレーディング パートナなど) を表示すると、<b>B2B Integration</b> のパフォーマンスが低下する可能性があるため、ナビゲーション ツリーのエンティティ表示は、デフォルトでは無効になっている。</p>

3. 必要に応じて、適切なフィールドを修正します。
4. **[ 適用 ]** をクリックします。

設定は複数の B2B Console セッション間でも持続します。

## 高度なシステム コンフィグレーション機能を表示する

以下の B2B Console の機能の表示を有効にしたり無効にしたりできます。

- ロジック プラグインのコンフィグレーション
- ビジネスプロトコル定義のコンフィグレーション
- トレーディング パートナの高度なコンフィグレーション

これらの機能の表示の有無を変更するには、以下の手順を実行します。

1. ナビゲーションツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。
2. **[コンフィグレーション]** タブ、**[プリファレンス]** タブの順に選択します。
3. **[拡張コンフィグレーション コントロールを表示]** オプションを選択または選択を解除して、前述の各機能を有効化、または無効化します。
4. **[適用]** をクリックします。

## 1 ページに表示される項目数の制御

各 B2B Console ページに表示される項目の数を変更するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーションツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。
2. **[コンフィグレーション]** タブ、**[プリファレンス]** タブの順に選択します。
3. **[1 ページに表示するアイテム数]** フィールドに、適当と思われる値を入力します。デフォルトは 5 です。
4. **[適用]** をクリックします。

## ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示

ナビゲーション ツリーの最上位ノードの下に個々の項目を表示するかどうかを制御できます。

**注意：** ナビゲーション ツリーに多数のエンティティ（トレーディング パートナなど）を表示すると、**B2B Integration** のパフォーマンスが低下する可能性があるため、ナビゲーション ツリーのエンティティ表示は、デフォルトでは無効になっています。

個々の項目の表示を有効または無効にするには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。
2. **[コンフィグレーション]** タブ、**[プリファレンス]** タブの順に選択します。
3. ナビゲーション ツリーのオプションで、**[表示]** エンティティを選択するか、または選択を解除して、ナビゲーション ツリーの個々の項目を表示するか非表示にするかを指定します。デフォルトでは、このオプションは選択されていません。
4. **[適用]** をクリックします。

## B2B Integration のパフォーマンスの制御

WebLogic Integration には、**B2B Integration** や **B2B Console** の実行時パフォーマンスを向上させるために設定できるいくつかのパラメータがあります。

- **XOCP** バインディングを使用してトレーディング パートナのドキュメント交換をコンフィグレーションする場合、**[配信の確認]** および **[メッセージの履歴]** という 2 つのオプションを使用して、**B2B Integration** 機能の実行時パフォーマンスを変えることができます。詳細については、3-22 ページの「ドキュメント交換のための **XOCP 1.1** のコンフィグレーション（非推奨）」を参照してください。
- メッセージをデータベースに書き込むかファイルシステムに書き込むかを、選択できます。詳細については、2-2 ページの「**B2B Integration** のパラメータの定義」を参照してください。

また、B2B Console のパフォーマンスは、ナビゲーション ツリーでエンティティがどのように表示されるかにも左右されます。詳細については、1-4 ページの「ナビゲーション ツリーの使用」を参照してください。

# 高度なトレーディング パートナのコンフィグレーション オプションの使用

B2B Console は、トレーディング パートナの XOCP フィルタおよびルータと、拡張プロパティの設定を修正する、高度なコンフィグレーション オプションを提供します。これらの設定は、ほとんどのユーザにとっては修正不要です。

## トレーディング パートナの XOCP フィルタおよびルータのコンフィグレーション（非推奨）

**注意：** XOCP ビジネス プロトコルは、WebLogic Integration の今回のリリースで非推奨になっています。XOCP ビジネス プロトコルに代わる機能についての詳細は、『*WebLogic Integration リリース ノート*』を参照してください。

特定のトレーディング パートナに関連付けられた XOCP フィルタおよびルータのリストを表示するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。（このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます）。

2. [詳細設定] タブを選択します。[XOCP フィルタおよびルータ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。

指定したトレーディング パートナに関連付けられたフィルタおよびルータのリストが表示されます。このタブのフィールドの詳細については、7-1 ページの「ビジネスプロトコルのコンフィグレーション」を参照してください。

B2B Integration で使用される XOCP フィルタおよびルータの詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

## トレーディング パートナの XOCP フィルタまたはルータの削除

トレーディング パートナの XOCP フィルタまたはルータを削除するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。（このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます）。
2. [詳細設定] タブを選択します。[XOCP フィルタおよびルータ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. [XOCP フィルタ チェーン] または [XOCP ルータ チェーン] と表記されたリストで、削除するものを選択します。[削除] をクリックします。

B2B Integration で使用される XOCP フィルタおよびルータの詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

# トレーディング パートナの拡張プロパティのコンフィグレーション

トレーディング パートナ定義を処理するための特別な条件を定義するには、[ 拡張プロパティ ] タブを使用します。たとえば、XPath 式を使用して、フィルタ処理およびルーティングの規則を変更できます。これらのプロパティは、ビジネスプロトコル ルータおよびフィルタ ロジック プラグインによって生成されるメッセージコンテキスト ドキュメントに含まれています。

特定のトレーディング パートナ用に設定された拡張プロパティを表示するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [ トレーディング パートナ ] ノードをクリックします。[ トレーディング パートナ ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[ プリファレンス ] タブでナビゲーション ツリー オプションの [ 表示 ] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。
2. [ コンフィグレーション ] タブがアクティブでない場合は、これをクリックします。[ 詳細設定 ] タブ、[ 拡張プロパティ ] タブの順に選択します。[ 拡張プロパティ ] タブには、以下のフィールドが表示されています。

表 2-7 [ 拡張プロパティ ] タブのフィールド

フィールド	説明
[ プロパティ名 ]	このトレーディング パートナ用に作成する新しい拡張プロパティの名前。
[ プロパティ値 ]	拡張プロパティの値。

表 2-7 [ 拡張プロパティ ] タブのフィールド ( 続き )

フィールド	説明
[ 属性 ]	B2B Integration に追加できるカスタム属性。
[ 名前 ]	追加する属性の名前。
[ 値 ]	追加する属性の値。
[ 属性 ]	使用できる属性のリスト ( <i>name=value</i> の形式で、名前 / 値のペアとして表示 ) 。
[ 拡張プロパティ ]	このトレーディング パートナのための既存の拡張プロパティのリスト。リスト内のプロパティの 1 つをクリックすると、このタブの他のフィールドが、そのプロパティに適した情報と共に伝播される。

- 必要に応じて、適切なフィールドを修正します。
- [ 追加 / 適用 ] をクリックします。

B2B Integration で使用される XOCP フィルタおよびルータの詳細については、*B2B Integration 管理ガイド*の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

# トレーディング パートナへの拡張プロパティの追加

トレーディング パートナに拡張プロパティを（名前 / 値ペアの形式で）追加できます。拡張プロパティを追加するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。（このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます）。
2. [詳細設定] タブを選択します。[拡張プロパティ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. 新しいプロパティの名前、値、および名前 / 値ペアを入力します。拡張プロパティ フィールドの詳細については、2-18 ページの「高度なトレーディング パートナのコンフィグレーション オプションの使用」を参照してください。
4. [追加 / 適用] をクリックします。新しいプロパティがリポジトリに追加されます。

B2B Integration で使用される XOCP フィルタおよびルータの詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

# トレーディング パートナからの拡張プロパティの削除

トレーディング パートナから（名前 / 値ペアの形式の）拡張プロパティを削除できます。拡張プロパティを削除するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。
2. [詳細設定] タブを選択します。[拡張プロパティ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. 拡張プロパティのリストから、削除するものを選択します。[削除] をクリックします。

**B2B Integration** で使用される **XOCP** フィルタおよびルータの詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。



---

## 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

ここでは、以下の内容を取り上げます。

- トレーディング パートナのコンフィグレーションの概要
- トレーディング パートナの作成
- トレーディング パートナの修正
- トレーディング パートナの削除
- トレーディング パートナ パーティ ID のコンフィグレーション
- トレーディング パートナの証明書のコンフィグレーション
- トレーディング パートナのドキュメント交換のコンフィグレーション
- トレーディング パートナ転送のコンフィグレーション
- トレーディング パートナの配信チャネルのコンフィグレーション

### トレーディング パートナのコンフィグレーションの概要

**B2B** 電子商取引の基本単位の 1 つが、トレーディング パートナです。トレーディング パートナの ID は、電子コミュニティのビジネス目的との関連で定義する必要があります。WebLogic Integration 環境では、トレーディング パートナは、他のエンティティとの間で、事前に定義された役割を果たすことにより、特定のビジネス上のやり取りまたは会話に参加することに同意しているエンティティとして理解されます。

WebLogic Integration B2B Console を使用すると、トレーディング パートナを作成、コンフィグレーション、および修正できます。ここでは、トレーディング パートナの基本的なコンフィグレーションを行う手順について説明します。トレーディング パートナの高度なコンフィグレーションを行う手順については、2-18 ページの「高度なトレーディング パートナのコンフィグレーション オプションの使用」に記載しています。

## トレーディング パートナの作成

トレーディング パートナを作成するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。 [トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. リスト先頭の [新しいトレーディング パートナの作成] リンクをクリックします。表示が修正されて、新しいトレーディング パートナを定義できるようになります。
3. フィールドに新しい値を入力するか、表示されているデフォルト値を修正します。必要な情報を入力するまで、他のタブはアクティブになりません。

表 3-1 [トレーディング パートナ] タブのフィールド

フィールド	説明
[名前]	作成または修正するトレーディング パートナの名前。インスタンスを作成後は、このフィールドは読み取り専用になる（上限は 254 文字）
[説明]	トレーディング パートナの簡単な説明（上限は 254 文字）（省略可）。
[タイプ]	ローカルかリモートかを選択する。トレーディング パートナがローカルである（つまり、B2B エンジンと同じマシン上で実行されている）か、リモートである（つまり、B2B エンジンのホスト マシンとは別のマシン上で実行されている）かの表示。
[アドレス]	トレーディング パートナの住所（上限は 254 文字）（省略可）。
[電子メール]	トレーディング パートナの電子メールアドレス（上限は 254 文字）（省略可）。

表 3-1 [トレーディング パートナ] タブのフィールド (続き)

フィールド	説明				
[電話]	トレーディング パートナの電話番号 (上限は 254 文字) (省略可)。				
[ファックス]	トレーディング パートナのファックス番号 (上限は 254 文字) (省略可)。				
[WLS ユーザ名]	<p>トレーディング パートナによってメッセージが送信されるときに、そのトレーディング パートナの証明書のマッピング先となる WebLogic Server ユーザの名前。このフィールドにデータが入ると、WebLogic Server ユーザアカウントが作成される。デフォルトのパスワードは、ユーザ名。</p> <p>この設定は、特にリモートのトレーディング パートナからの接続との関連で、クライアント側のセキュリティ設定に影響する。</p> <p>WebLogic Server で提供されているセキュリティ機能、および B2B Integration 機能に関する詳細は、『<i>B2B Integration セキュリティの構築</i>』の「セキュリティのコンフィグレーション」を参照。</p>				
[エンコード]	<p>このトレーディング パートナとの通信に使用される自然言語。このトレーディング パートナによって送信されるメッセージは、ここで指定する言語にエンコードされる (省略可)。デフォルトは [UTF-8 (English)]。詳細については、『<i>B2B Integration 管理ガイド</i>』の「コンフィグレーション要件」の、「トレーディング パートナのエンコーディングに関する注意」を参照してください。</p>				
[ステータス]	<p>トレーディング パートナをアクティブにするか非アクティブにするかを指定できるフィールド。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>[アクティブ]</td> <td>トレーディング パートナはアクティブであり、B2B Integration ユーザによって利用可能。</td> </tr> <tr> <td>[非アクティブ]</td> <td>トレーディング パートナは非アクティブであり、使用不可。</td> </tr> </tbody> </table>	[アクティブ]	トレーディング パートナはアクティブであり、B2B Integration ユーザによって利用可能。	[非アクティブ]	トレーディング パートナは非アクティブであり、使用不可。
[アクティブ]	トレーディング パートナはアクティブであり、B2B Integration ユーザによって利用可能。				
[非アクティブ]	トレーディング パートナは非アクティブであり、使用不可。				

4. [作成] をクリックします。トレーディング パートナ名が無効の場合は、エラー メッセージが表示されます。必須フィールドへの入力をすべて完了するまでは、新しいトレーディング パートナを作成できません。

新しいトレーディング パートナの作成後、[一般] タブが更新され、入力した情報が表示されます。他のコンフィグレーション タブもアクティブ化され、[作成] オプションは [適用] と [リセット] の 2 つのオプションに置換されます。これ

で、トレーディング パートナの追加要素をコンフィグレーションできます。新しいトレーディング パートナは、全トレーディング パートナのリストに表示されます。

## トレーディング パートナの修正

既存のトレーディング パートナを修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. トレーディング パートナを選択します。そのトレーディング パートナのページ上のコンフィグレーション フィールドにデータが入ります。
3. 修正する情報が含まれるタブを選択します。詳細については、3-2 ページの「トレーディング パートナの作成」を参照してください。
4. [追加/適用] をクリックします。[一般] タブが、入力した新規情報で更新されます。これで、必要に応じて他のコンフィグレーション タブの要素を修正できるようになりました。

# トレーディング パートナの削除

**注意：** トレーディング パートナは、アクティブなコラボレーション アグリーメントがそのトレーディング パートナのパーティ ID を使用しているときには、リポジトリから削除できません。

リポジトリからトレーディング パートナを削除するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。 [トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. 1 つまたは複数のトレーディング パートナを選択します。
3. ウィンドウ下部の [削除] を選択します。

## トレーディング パートナ パーティ ID のコンフィギュレーション

トレーディング パートナ パーティ ID を使用すると、ビジネス会話に参加するビジネス エンティティを指定できます。トレーディング パートナには、さまざまなコラボレーション アグリーメントにおけるパーティを識別する、いくつかのパーティ ID を使用できます。たとえば、会社 XYZ が XYZTradingPartner という名前のトレーディング パートナを作成したとします。このトレーディング パートナは、たとえば見積請求や発注書の要求など、いくつかの会話に参加できます。

## 新しいパーティ ID の作成

パーティ ID は、コラボレーション アグリーメントとの関連でトレーディング パートナを識別するために名前と共に使用される文字列です。パーティ ID を使用すると、ビジネスに対して一意の要素を定義できます。たとえば、特定のトレーディング パートナのパーティ ID として Dun and Bradstreet 社の DUNS (Dun and Bradstreet's Universal Numbering System) 番号を入力することができます。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

新しいパーティ ID を作成するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. [コンフィグレーション] タブ、[パーティ ID] タブの順に選択します。[パーティ ID] タブには、以下のフィールドが表示されます。

表 3-2 [パーティ ID] タブのフィールド

フィールド	説明
[パーティ ID]	任意の文字の組み合わせで構成される、分かりやすい一意のパーティ ID。パーティ ID は、トレーディング パートナ名と共に、コラボレーション アグリーメント内のパーティの識別に使用される。たとえば、Dell DUNS (必須)。
[ビジネス ID]	このパーティ ID と関連付けるビジネス ID に付ける分かりやすい名前。たとえば、DUNS (省略可)。
[ビジネス ID タイプ]	ビジネス ID タイプに対して付ける、ビジネス ID とパーティ ID の関係を説明する名前。たとえば、会社の Dun & Bradstreet 番号 (省略可)。
[パーティ ID]	既存の全パーティ ID のリスト。

3. 必要に応じて、適切なフィールドを修正します。
4. [追加/適用] をクリックします。新しいパーティ ID が、使用できるパーティ ID のリストに追加されます。

## パーティ ID の修正

既存のパーティ ID を修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. [コンフィグレーション] タブを選択し、次に [パーティ ID] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。使用できる全パーティ ID のリストが表示されます。
3. 修正するパーティ ID を選択します。その ID のコンフィグレーション フィールドにデータが入ります。
4. 必要に応じてフィールドを修正します。
5. [追加/適用] をクリックします。

## パーティ ID の削除

パーティ ID を削除するには、以下の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツ

リーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[パーティ ID] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。使用できるパーティ ID のリストが表示されます。
3. 削除するパーティ ID を選択します。
4. [削除] をクリックします。

## トレーディング パートナの証明書のコンフィグレーション

WebLogic Integration は、トレーディング パートナ間のトランザクションをセキュアにするデジタル証明書の使用をサポートします。これらの証明書は、プライベート キーと共に、さまざまな B2B Integration 機能に対して以下の 3 つのセキュリティ機能をサポートしています。

- SSL 認証
- デジタル署名
- RosettaNet におけるデータ暗号化

WebLogic Server で提供されているセキュリティ機能、および B2B Integration 機能に関する詳細は、『*B2B Integration セキュリティの実装*』の「セキュリティのコンフィグレーション」を参照してください。

## 証明書参照の追加、および証明書のキーストアへのインポート

アプリケーションで証明書を使用する場合、証明書に対する参照を **WebLogic Integration** リポジトリに作成する必要があります。また、その証明書を、証明書と関連付けられたプライベート キーと共にキーストアにインポートすることもできます。

リポジトリに証明書参照を作成し、その証明書をそのプライベート キーと共にキーストアにインポートするには、次の手順に従います。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[証明書] タブがアクティブでない場合は、ここでこれを選択します。[証明書エントリの作成] リンクをクリックします。

現在のトレーディング パートナがローカルの場合、ここで [証明書] タブに表示されるフィールドの説明は表 3-3 に示されています。

現在のトレーディング パートナがリモートの場合、ここで [証明書] タブに表示されるフィールドの説明は表 3-4 に示されています。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

表 3-3 ローカル トレーディング パートナに対する [ 証明書 ] タブのフィールド

フィールド	説明
[ 証明書名 ]	WebLogic Integration リポジトリの証明書の名前を指定する。指定した名前はキーストアのエリアスとしても使用される。
[ 証明書のタイプ ]	WebLogic Integration トレーディング パートナ証明書のタイプを以下の中から指定する。
[ クライアント証明書 ]	このリモート トレーディング パートナ用のデジタル証明書。相互認証の SSL プロトコル使用時には必須。
[ 署名証明書 ]	会話に対して否認防止性がコンフィグレーションされている場合に、各トレーディング パートナに必要。
[ 暗号証明書 ]	コラボレーションにビジネス メッセージの暗号化が使用される場合に、各トレーディング パートナに必要。暗号化のサポートは、RosettaNet プロトコルでのみ使用可能となる。
[ 証明書の位置 ]	WebLogic Server キーストアにインポートする証明書ファイルの場所 (絶対パス名)。
[ プライベート キーの位置 ]	プライベート キー ファイルの場所 (絶対パス名)。プライベート キーは、プライベート キー パスワードが正しいと検証された後、プライベート キー ファイルから抽出される。抽出後、プライベート キーは、メッセージにデジタル署名してリモート トレーディング パートナに送信するとき、またはリモート トレーディング パートナから受信したメッセージを解読するときに、ローカル トレーディング パートナによって使用される。このフィールドは、SSL、デジタル署名、または暗号化のいずれかのセキュリティ機能を使用しているローカル トレーディング パートナの場合に限って必要となる。
[ プライベート キーのパスワード ]	プライベート キーのパスワードを入力する。プライベート キーがパスワード保護されていない場合は、キーストアのパスワードを入力する。正しいパスワードを入力しないと、プライベート キーをキーストアにインポートできない。このフィールドは、[ プライベート キーの位置 ] フィールドに値が入力された場合必須となる。

表 3-4 リモート トレーディング パートナに対する [ 証明書 ] タブのフィールド

フィールド	説明
[ 証明書名 ]	WebLogic Integration リポジトリの証明書の名前を指定する。指定した名前はキーストアのエリアスとしても使用される。
[ 証明書のタイプ ]	WebLogic Integration トレーディング パートナ証明書のタイプを以下の中から指定する。
[ クライアント証明書 ]	リモートまたはローカルのトレーディング パートナのデジタル証明書。相互認証の SSL プロトコル使用時には必須。
[ サーバ証明書 ]	リモート トレーディング パートナのデジタル証明書。SSL プロトコル使用時には必須。
[ 署名証明書 ]	会話に対して否認防止性がコンフィグレーションされている場合に、各トレーディング パートナに必要。
[ 暗号証明書 ]	コラボレーションにビジネス メッセージの暗号化が使用される場合に、各トレーディング パートナに必要。暗号化のサポートは、RosettaNet プロトコルでのみ使用可能となる。
[ 証明書の位置 ]	WebLogic Server キーストアにインポートする証明書ファイルの場所（絶対パス名）。

3. 証明書のコンフィグレーション情報を入力します。

表 3-5 の説明を参考にしてローカル トレーディング パートナに対する該当フィールドを入力します。

表 3-6 の説明を参考にしてリモート トレーディング パートナに対する該当フィールドを入力します。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

表 3-5 ローカル トレーディング パートナに対する [ 証明書 ] タブ

証明書が...	入力対象フィールド	必須 / 省略可
まだキーストアにインポートされていない場合	[ 証明書名 ] (キーストアのエリアス名になる)	必須
	[ 証明書のタイプ ]	必須
	[ 証明書の位置 ]	必須
	[ プライベート キーの位置 ]	必須
	[ プライベート キーのパスワード ]	必須
すでにキーストアにインポートされている場合	[ 証明書名 ] (この証明書に対するキーストアのエリアス名)	必須
	[ 証明書のタイプ ]	必須
	[ 証明書の位置 ]	省略可
	[ プライベート キーの位置 ]	省略可
	[ プライベート キーのパスワード ]	必須

表 3-6 リモート トレーディング パートナに対する [ 証明書 ] タブの入力対象フィールド

証明書が...	入力対象フィールド	必須 / 省略可
まだキーストアにインポートされていない場合	[ 証明書名 ] (キーストアのエリアス名になる)	必須
	[ 証明書のタイプ ]	必須
	[ 証明書の位置 ]	必須
すでにキーストアにインポートされている場合	[ 証明書名 ] (この証明書に対するキーストアのエリアス名)	必須
	[ 証明書のタイプ ]	必須
	[ 証明書の位置 ]	省略可

4. 証明書がまだキーストアにインポートされていない場合は、[キーストアへ証明書を保存]チェックボックスを選択します。
5. [追加]をクリックします。

## 証明書参照の削除

WebLogic Integration リポジトリの証明書参照を削除するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[証明書] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。使用できる証明書のリストが表示されます。
3. **WebLogic Integration** リポジトリから削除する証明書参照を選択します。証明書も併せてキーストアから削除したい場合は、[キーストアから証明書を削除] チェックボックスを選択します。
4. [削除] をクリックします。

# トレーディング パートナのドキュメント交換のコンフィグレーション

ドキュメント交換時にコラボレーション アグリーメントのパーティが使用するビジネス プロトコル バインディング 情報を定義するには、指定したトレーディング パートナの [ドキュメント交換] タブを使用します。

トレーディング パートナのドキュメント交換を作成するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。 [トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. [コンフィグレーション] タブを選択します。 [ドキュメント交換] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. ビジネス プロトコル バインディング を選択します。これ以降の手順は、何を選択したかによって異なります。詳細については、以下の節を参照してください。
  - 3-15 ページの「ドキュメント交換のための cXML のコンフィグレーション (非推奨)」
  - 3-16 ページの「ドキュメント交換のための RosettaNet 1.1 のコンフィグレーション」
  - 3-19 ページの「ドキュメント交換のための RosettaNet 2.0 のコンフィグレーション」
  - 3-22 ページの「ドキュメント交換のための XOCIP 1.1 のコンフィグレーション (非推奨)」。

- 3-25 ページの「ドキュメント交換のための ebXML 1.0 のコンフィグレーション」

ドキュメント交換 ID による証明書の使用法に関する詳細は、『*B2B Integration セキュリティの実装*』の「セキュリティのコンフィグレーション」を参照してください。

## ドキュメント交換のための cXML のコンフィグレーション（非推奨）

**注意：** cXML ビジネス プロトコルは、WebLogic Integration の今回のリリースで非推奨になっています。cXML ビジネス プロトコルに代わる機能についての詳細は、『*WebLogic Integration リリース ノート*』を参照してください。

cXML 1.1 バインディングを使用してトレーディング パートナのドキュメント交換 ID を作成するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。（このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます）。

[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. [コンフィグレーション] タブ、[ドキュメント交換] タブの順で選択します。
3. [ビジネス プロトコル バインディング] フィールドで、[cXML 1.1] を選択します。cXML 値は、次の表で示します。

表 3-7 [ドキュメント交換] タブの cXML フィールド

フィールド	説明
[ドキュメント交換名]	ドキュメント交換 ID の一意の名前。この ID は、ビジネス プロトコル バインディング情報の関連付けに使用される。
[ビジネス プロトコル バインディング]	ドロップダウン リストから [cXML 1.1] を選択する。各ドキュメント交換 ID には、1 つのビジネス プロトコルを関連付けることができる。選択したプロトコルは、[ドキュメント交換名] フィールドで指定したトレーディング パートナのドキュメント交換名にバインドされる。
[ビジネス プロトコル 定義]	前のフィールドで指定したビジネス プロトコル バインディングと関連付けられるビジネス プロトコル。
[共有シークレット]	データを送信しているパーティが本物であることを検証するために使用される情報。
[署名証明書]	ドロップダウン リストから選択される署名証明書の種類。
[有効なドキュメント 交換]	使用できるドキュメント交換のリスト。

4. ドキュメント交換の追加または更新が終了したら、[追加/適用] をクリックします。

## ドキュメント交換のための RosettaNet 1.1 のコンフィグレーション

RosettaNet 1.1 バインディングを使用してトレーディング パートナのドキュメント交換 ID を作成するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。

## トレーディング パートナのドキュメント交換のコンフィグレーション

- ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、**WebLogic Integration B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[ドキュメント交換] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. [ビジネス プロトコル バインディング] フィールドで、**[RosettaNet 1.1]** を選択します。[ドキュメント交換] タブの全フィールドのデフォルト値を、次の表で示します。

表 3-8 [ドキュメント交換] タブの RosettaNet 1.1 フィールド

フィールド	説明
[ドキュメント交換名]	ドキュメント交換 ID の一意の名前。この ID は、ビジネス プロトコル バインディング情報の関連付けに使用される。
[ビジネス プロトコル バインディング]	ドロップダウン リストから <b>[RosettaNet 1.1]</b> を選択する。各ドキュメント交換 ID には、1 つのビジネス プロトコルを関連付けることができる。選択したプロトコルは、[ドキュメント交換名] フィールドで指定したトレーディング パートナのドキュメント交換名にバインドされる。
[ビジネス プロトコル 定義]	前のフィールドで指定したビジネス プロトコル バインディングと関連付けられるビジネス プロトコル。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

表 3-8 [ドキュメント交換] タブの RosettaNet 1.1 フィールド (続き)

フィールド	説明
<b>[ デジタル署名 (否認防止) ]</b>	使用されるデジタル署名の種類は、署名証明書、否認防止性プロトコル、ハッシュ関数、または署名アルゴリズム。このフィールドのドロップダウン リストから目的の種類を選択する (必須)。
<b>[ 署名証明書 ]</b>	ドロップダウン リストから署名証明書を選択する。このフィールドは省略可能。このフィールドのリストは、[ 証明書 ] タブから生成される
<b>[ 否認防止プロトコル ]</b>	署名証明書に関連付けられたビジネスプロトコル。[ 署名証明書 ] を選択した場合、このフィールドの値は「PKCS7」とする。そうでない場合は空にすること。否認防止の詳細については、『 <i>B2B Integration セキュリティの実装</i> 』の「否認防止性の実装」を参照 (読み取り専用)。
<b>[ ハッシュ関数 ]</b>	トレーディング パートナによって交換される暗号化パスワードに使用される関数。[ 署名証明書 ] を選択した場合、この値は「SHA1」とする。それ以外の場合は空にすること。B2B Integration において RosettaNet および XOCF の両プロトコルで使用されるハッシュ関数は SHA1 となる (読み取り専用)。
<b>[ 署名アルゴリズム ]</b>	トレーディング パートナによって交換される署名証明書の暗号化に使用されるアルゴリズム。[ 署名証明書 ] を選択した場合、この値は「RSA」とする。それ以外の場合は空にすること。B2B Integration において RosettaNet および XOCF の両プロトコルで使用される署名アルゴリズムは RSA となる (読み取り専用)。
<b>[ 有効なドキュメント交換 ]</b>	使用できるドキュメント交換のリスト。

4. [ 追加 / 適用 ] をクリックします。

## ドキュメント交換のための RosettaNet 2.0 のコンフィグレーション

RosettaNet 2.0 バインディングを使用してトレーディング パートナのドキュメント交換 ID を作成するには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
- [コンフィグレーション] タブ、[ドキュメント交換] タブの順で選択します。
- [ビジネス プロトコル バインディング] フィールドで、[RosettaNet 2.0] を選択します。[ドキュメント交換] タブの全フィールドのデフォルト値を、次の表で示します。

表 3-9 [ドキュメント交換] タブの RosettaNet 2.0 フィールド

フィールド	説明
[ドキュメント交換名]	ドキュメント交換 ID の一意の名前を入力する。この ID は、ビジネス プロトコル バインディング情報の関連付けに使用される。
[ビジネス プロトコル バインディング]	ドロップダウン リストから [RosettaNet 2.0] を選択する。各ドキュメント交換 ID には、1 つのビジネス プロトコルを関連付けることができる。選択したプロトコルは、[ドキュメント交換名] フィールドで指定したトレーディング パートナのドキュメント交換名にバインドされる。
[ビジネス プロトコル 定義]	前のフィールドで指定したビジネス プロトコル バインディングと関連付けられるビジネス プロトコル。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

表 3-9 [ドキュメント交換] タブの RosettaNet 2.0 フィールド (続き)

フィールド	説明
[ 暗号 ]	暗号化値。
[ 暗号証明書 ]	ビジネス メッセージの暗号化のコンフィグレーション時に各トレーディング パートナに必要となる証明書。暗号化のサポートは、RosettaNet プロトコルでのみ利用可能。
[ 暗号化レベル ]	[ 暗号証明書 ] を選択した場合に、ビジネス メッセージの暗号化したい部分を指定できる。 メッセージの XML ビジネスドキュメント部分のみを暗号化する場合は、[PAYLOAD] を選択する。 ビジネスドキュメントとメッセージ内のすべての添付ファイルを暗号化する場合は、[ENTIRE_PAYLOAD] を選択する。
[ 暗号アルゴリズム ]	ドロップダウン リストから使用できる暗号化の暗号アルゴリズムの種類。以下の暗号アルゴリズムがサポートされている。 <ul style="list-style-type: none"><li>◆ RC5 — RC5 を選択すると、RSA セキュリティコードに渡されるアルゴリズム オブジェクト識別子は「RC5-0x10-32-16/CBC/PKCS5Padding」となる。アルゴリズム オブジェクト識別子が RC5-0x10-32-16/CBC/PKCS5Padding の場合、メッセージの暗号化には CBC モードで PKCS5 埋め込みアルゴリズムによる RC5 が使用される。</li><li>◆ DES — DES を選択すると、RSA セキュリティコードに渡されるアルゴリズム オブジェクト識別子は「DES/CBC/PKCS5Padding」となる。アルゴリズム オブジェクト識別子が DES/CBC/PKCS5Padding の場合、メッセージの暗号化には CBC モードで PKCS5 埋め込みアルゴリズムによる DES が使用される。</li><li>◆ 3DES — 3DES を選択すると、RSA セキュリティコードに渡されるアルゴリズム オブジェクト識別子は「3DES_EDE/CBC/PKCS5Padding」となる。アルゴリズム オブジェクト識別子が 3DES_EDE/CBC/PKCS5Padding の場合、メッセージの暗号化には EDE モードで PKCS5 埋め込みアルゴリズムによる Triple DES が使用される。ドメスティックライセンスが必要。</li></ul>

表 3-9 [ドキュメント交換] タブの RosettaNet 2.0 フィールド (続き)

フィールド	説明
<b>[デジタル署名 (否認防止)]</b>	必要とされるデジタル署名の種類。否認防止の詳細については、『 <i>B2B Integration セキュリティの実装</i> 』の「否認防止性の実装」を参照。
<b>[署名証明書]</b>	ドロップダウン リストから選択される署名証明書の種類。このフィールドのリストは、[証明書] タブから生成される (省略可)。
<b>[否認防止プロトコル]</b>	署名証明書に関連付けられたビジネス プロトコル。[署名証明書] を選択した場合、この値は「PKCS7」とする。それ以外の場合は空の文字列とする (読み取り専用)。
<b>[ハッシュ関数]</b>	トレーディング パートナによって交換される暗号化パスワードに使用される関数。[署名証明書] を選択した場合、この値は「SHA1」とする。それ以外の場合の値は null とする。B2B Integration において RosettaNet および XOCF の両プロトコルで使用されるハッシュ関数は SHA1 となる (読み取り専用)。
<b>[署名アルゴリズム]</b>	トレーディング パートナによって交換される署名証明書の暗号化に使用されるアルゴリズム。[署名証明書] を選択した場合、この値は「RSA」とする。それ以外の場合の値は null とする。B2B Integration において RosettaNet および XOCF の両プロトコルで使用される署名アルゴリズムは RSA となる (読み取り専用)。
<b>[有効なドキュメント交換]</b>	既存のドキュメント交換のリスト。

4. [追加/適用] をクリックします。

ドキュメント交換 ID による証明書の使用方法に関する詳細は、『*B2B Integration セキュリティの実装*』の「セキュリティのコンフィグレーション」を参照してください。

## ドキュメント交換のための XOCP 1.1 のコンフィグレーション（非推奨）

**注意：** XOCP ビジネス プロトコルは、WebLogic Integration の今回のリリースで非推奨になっています。XOCP ビジネス プロトコルに代わる機能についての詳細は、『WebLogic Integration リリース ノート』を参照してください。

XOCP バインディングを使用してトレーディング パートナのドキュメント交換 ID を作成するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。（このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます）。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[ドキュメント交換] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. [ビジネス プロトコル バインディング] フィールドで、[XOCP 1.1] を選択します。[ドキュメント交換] タブの全フィールドのデフォルト値を、次の表で示します。

表 3-10 [ドキュメント交換] タブの XOCP フィールド

フィールド	説明
[ドキュメント交換名]	ドキュメント交換 ID の一意の名前。この ID は、ビジネス プロトコル バインディング情報の関連付けに使用される。

表 3-10 [ドキュメント交換] タブの XOCP フィールド (続き)

フィールド	説明
[ビジネス プロトコル バインディング]	ドロップダウン リストから [XOCP 1.1] を選択する。各ドキュメント交換 ID には、1 つのビジネス プロトコルを関連付けることができる。選択したプロトコルは、[ドキュメント交換名] フィールドで指定したトレーディング パートナのドキュメント交換名にバインドされる。
[ビジネス プロトコル 定義]	前のフィールドで指定したビジネス プロトコル バインディングと関連付けられるビジネス プロトコル。
[エンド ポイント のタイプ]	このトレーディング パートナと他の B2B Integration インスタンスの間で使用される接続の種類。詳細については、『 <i>B2B Integration 管理ガイド</i> 』の「コンフィグレーションの要件」を参照。
[配信の確認]	<p>選択したメッセージ配信型 (hub_receipt、hub_routed または destination) が確認されるたびにシステムから受信応答があるようにする場合に、このオプションを選択する。</p> <p><b>注意：</b> この機能がアクティブであれば、B2B エンジンの実行時パフォーマンスに影響する。</p> <p>詳細については、『<i>B2B Integration 管理ガイド</i>』の「コンフィグレーションの要件」を参照。</p>
[HUB_RECEIPT]	ハブがメッセージを受信すると、送信者が確認を受け取る。このオプションは、パフォーマンスの低下が最も小さい。
[HUB_ROUTED]	メッセージがハブにルーティングされると、送信者が確認を受け取る。このオプションは、パフォーマンスの低下が中程度。
[DESTINATION]	メッセージが指定した受信側に送信されると、送信者が確認を受け取る。このオプションは最も高コストでパフォーマンスの低下が最も大きい。
[メッセージの履歴]	WebLogic Integration によって内部リストに格納される送信者メッセージ ID の数。WebLogic Integration では、最後に送信されたメッセージのメッセージ ID の内部リストが保持される。リストの長さは、このフィールドに入力された数値によって決まる。このリストは、現在外部的には使用できない。このフィールドに指定する数値が大きいくほど、パフォーマンスの低下も大きくなる。デフォルト値の 0 が指定された場合は、実行時パフォーマンスはまったく影響を受けない。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

表 3-10 [ドキュメント交換] タブの XOCP フィールド (続き)

フィールド	説明
[再試行]	値をテキスト フィールドに入力して、任意の再試行値を指定する。詳細については、2-13 ページの「[プリファレンス] の設定」を参照。
[再試行の回数]	WebLogic Integration にメッセージ送信を試行させる回数。デフォルトは 3。
[間隔]	同一メッセージを再送信しようとするまでに経過させる時間の長さ。デフォルトは 5000 ミリ秒。
[タイムアウト]	トランザクションの有効期間の長さ (日数、時間数、分数、秒数で指定)。この期間が過ぎると、WebLogic Integration は未処理のメッセージが残っていてもトランザクションを終了する。デフォルトは 5000 ミリ秒 (省略可)。
[デジタル署名 (否認防止)]	デジタル署名の種類を選択する。詳細については、『B2B Integration セキュリティの実装』の「否認防止性の実装」を参照。
[署名証明書]	使用する署名証明書の種類。有効な種類の選択肢は、[証明書] タブから生成されるドロップダウン リスト上で提示される。どれも選択しなければ、関連のフィールド ([否認防止プロトコル]、[ハッシュ関数] および [署名アルゴリズム]) は表示されない (省略可)。
[否認防止プロトコル]	署名証明書に関連付けられたビジネス プロトコル (読み取り専用)。
[ハッシュ関数]	トレーディング パートナによって交換される暗号化パスワードに使用される関数。B2B Integration において RosettaNet および XOCP の両プロトコルで使用されるハッシュ関数は SHA1 である (読み取り専用)。
[署名アルゴリズム]	トレーディング パートナによって交換される署名証明書の暗号化に使用されるアルゴリズム。B2B Integration において RosettaNet および XOCP の両プロトコルで使用される署名アルゴリズムは RSA である (読み取り専用)。

表 3-10 [ドキュメント交換] タブの XOCP フィールド (続き)

フィールド	説明
[有効なドキュメント交換]	使用できるドキュメント交換のリスト。

4. [追加/適用] をクリックします。

ドキュメント交換 ID による証明書の使用法に関する詳細は、『*B2B Integration セキュリティの実装*』の「セキュリティのコンフィグレーション」を参照してください。

## ドキュメント交換のための ebXML 1.0 のコンフィグレーション

ebXML バインディングを使用してトレーディング パートナのドキュメント交換 ID を作成するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。[トレーディング パートナ] ページが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。(このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[ドキュメント 交換] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. [ビジネス プロトコル バインディング] フィールドで、[ebXML-1.0] を選択します。次の表は、ebXML に対する [ドキュメント 交換] タブに表示されるフィールドを示しています。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

---

表 3-11 [ドキュメント交換] タブの ebXML フィールド

フィールド	説明
[ドキュメント交換名]	ドキュメント交換 ID の一意の名前。この ID は、ビジネスプロトコルバインディング情報の関連付けに使用される。
[ビジネスプロトコルバインディング]	ドロップダウンリストから [ebXML-1.0] を選択する。各ドキュメント交換 ID には、1 つのビジネスプロトコルを関連付けることができる。選択したプロトコルは、[ドキュメント交換名] フィールドで指定したトレーディングパートナーのドキュメント交換名にバインドされる。
[ビジネスプロトコル定義]	ebXML ビジネスプロトコルでは、選択可能なビジネスプロトコル定義は 1 つだけ (ebXML) に限られる。このフィールドのドロップダウンリストで選択できるのは、この「ebXML」だけとなっている。
[配信セマンティクス]	メッセージが確実に配信される必要の有無を指定する。 <b>[BestEffort]</b> メッセージ配信の確実性を必要としない場合は、ドロップダウンリストから [BestEffort] を選択する。 [BestEffort] は、WebLogic Integration がメッセージの配信を試みるが、その配信は保証されない、ということを示す。 <b>[OnceAndOnlyOnce]</b> メッセージ配信の確実性が必要な場合は、ドロップダウンリストから [OnceAndOnlyOnce] を選択する。 [OnceAndOnlyOnce] は、メッセージが確実に 1 度だけ配信されることを WebLogic Integration が保証することを示す。このオプションがデフォルトとなっている。

表 3-11 [ドキュメント交換] タブの ebXML フィールド (続き)

フィールド	説明
[再試行]	値をテキスト フィールドに入力して、任意の再試行値を指定する。詳細については、2-13 ページの「[プリファレンス]の設定」を参照。
[再試行の回数]	WebLogic Integration にメッセージ送信を試行させる回数。デフォルトは 3。
[間隔]	同一メッセージを再送信しようとするまでに経過させる時間の長さ。デフォルトは 60000 ミリ秒 (60 秒)。
[生存時間]	メッセージを受信者がその時間内に配信、処理することを定める秒単位の時間。このインターバルが過ぎると、メッセージ送信が停止される。デフォルトは 0 で、これは時間制限がないことを示している。
[デジタル署名 (否認防止)]	このフィールドは無視する。ebXML ではデジタル署名 (否認防止性) はサポートしていない。
[有効なドキュメント交換]	使用できるドキュメント交換のリスト。

4. [追加/適用] をクリックします。

ドキュメント交換 ID による証明書の使用法に関する詳細は、『*B2B Integration セキュリティの実装*』の「セキュリティのコンフィグレーション」を参照してください。

## ドキュメント交換の削除

トレーディング パートナのドキュメント交換を削除するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

---

- ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。右ペインにトレーディング パートナのリストが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
- ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。

**注意：** 2つ目のオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

[トレーディング パートナ] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択し、次に [ドキュメント交換] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。使用できるドキュメント交換のリストが表示されます。
3. 削除するドキュメント交換を選択します。[削除] をクリックします。

**注意：** 複数のドキュメント交換を選択してから [削除] をクリックすると、複数のドキュメント交換を同時に削除できます。

## トレーディング パートナ転送のコンフィグレーション

トレーディング パートナ転送は、コラボレーション アグリーメントに対するパーティがドキュメント交換を行うときに、これらのパーティによって使用される、ビジネスプロトコルバインディング情報を定義します。転送は、各トレーディング パートナの配信チャンネルに含まれます。この情報には、関連するビジネス トランザクションの転送プロトコルおよびセキュリティ パラメータが含まれます。各転送には、一意の ID が割り当てられます。

詳細については、3-32 ページの「トレーディング パートナの配信チャンネルのコンフィグレーション」を参照してください。

## 新しい転送の作成

トレーディング パートナの転送方式をコンフィグレーションする場合は、トレーディング パートナの転送方式を転送セキュリティ プロトコルにバインドします。

新しい転送を作成するには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。右ペインにトレーディング パートナのリストが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリー上で目的のトレーディング パートナのノードをクリックします。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

右ペインに [トレーディング パートナ] ページが表示されます。

- [コンフィグレーション] タブ、[転送] タブの順に選択します。
- [転送] タブで、次の表で指定されるように、必要に応じてフィールドにデータを入力します。

表 3-12 トレーディング パートナの転送プロトコル フィールド

フィールド	説明
[転送名]	一意の転送名を入力する。
[転送プロトコル]	転送のためのセキュリティプロトコル: HTTP-1.1 または HTTPS-1.1。HTTPS-1.1 プロトコルは SSL を使用し、クライアントまたはサーバの証明書が定義されている場合のみ選択できる。

### 3 トレーディング パートナのコンフィグレーション

表 3-12 トレーディング パートナの転送プロトコル フィールド (続き)

フィールド	説明
[ エンドポイント ]	URI (Uniform Resource Identifier) を入力して、トレーディング パートナ転送のためのコンフィグレーションされたエンドポイントのチェーンを作成する。  [URI エンドポイント] URI を入力して [設定] をクリックする。  [ エンドポイントのチェーン ] 順序付けされたリストに目を通す。チェーン内のエンドポイントの順序を並べ替えるには、上矢印および下矢印を使用する。エンドポイントを削除するには、選択して [削除] をクリックする。
[ セキュリティ プロトコル ]	セキュリティプロトコルの名前を入力する。HTTPS-11 を指定している場合は、SSL-3.0 プロトコルが使用される (読み取り専用)。
[ 利用可能な転送 ]	このタブを使用して作成された、使用できる転送のリスト。

ドキュメント交換 ID による証明書の使用方法に関する詳細は、『*B2B Integration セキュリティの実装*』の「セキュリティのコンフィグレーション」を参照してください。

4. 転送プロトコルのコンフィグレーションの修正が終了したら、[適用/追加] をクリックします。

## 転送の修正

既存の転送を修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、トレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。右ペインにトレーディング パートナのリストが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、トレーディング パートナを選択します。

**注意:** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、B2B Console の [プリファ

レンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

右ペインに [トレーディング パートナ] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[転送] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。使用できる転送のリストが表示されます。
3. 修正する転送プロトコル ID を選択します。指定したプロトコルの ID のコンフィグレーション フィールドが表示され、ここにデータが入ります。
4. 必要に応じてフィールドを修正し、[追加/適用] をクリックします。

## 転送の削除

転送を削除するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、トレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。右ペインにトレーディング パートナのリストが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、トレーディング パートナを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

右ペインに [トレーディング パートナ] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブ、[転送] タブの順に選択します。使用できる転送のリストが表示されます。
3. 削除する転送プロトコルを選択します。[削除] をクリックします。

**注意：** 複数の転送プロトコルを選択してから [削除] をクリックすると、複数の転送プロトコルを同時に削除できます。

# トレーディング パートナの配信チャネルの コンフィグレーション

配信チャネルは、トレーディング パートナがどのようにメッセージを送受信するかの定義です。転送およびドキュメント交換の要素を参照することによってコンフィグレーションします。詳細については、3-14 ページの「トレーディング パートナのドキュメント交換のコンフィグレーション」および 3-28 ページの「トレーディング パートナ転送のコンフィグレーション」を参照してください。

新しい配信チャネルを作成するには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行して、トレーディング パートナを選択します。
    - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。右ペインにトレーディング パートナのリストが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
    - ナビゲーション ツリーで、トレーディング パートナを選択します。
- 注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

右ペインに [トレーディング パートナ] ページが表示されます。

- [コンフィグレーション] タブ、[配信チャネル] タブの順に選択します。
- [配信チャネル] タブで、次の表で指定されるように、必要に応じてフィールドにデータを入力します。

**表 3-13 トレーディング パートナの配信チャネル フィールド**

フィールド	説明
[ 配信チャネル名 ]	一意の名前を入力する。この名前は ... 特性の関連付けに使用される。
[ 転送 ]	ドロップダウン リストから、配信チャネルのための転送を選択する。各配信チャネルに 1 つの転送を関連付けられる。

表 3-13 トレーディング パートナの配信チャネル フィールド (続き)

フィールド	説明
[ドキュメント交換]	ドロップダウン リストから、配信チャネルのためのドキュメント交換方式を選択する。各配信チャネルに1つのドキュメント交換を関連付けられる。
[ルーティング プロキシ]	[ドキュメント交換] タブで、[エンド ポイント タイプ] の値として [ハブ] を選択した場合は、[ルーティング プロキシ] オプションが選択される。詳細については、『 <i>B2B Integration 管理ガイド</i> 』の「基本的なコンフィグレーション タスク」を参照。(読み取り専用)。
[有効な配信チャネル]	使用できるすべての配信チャネルのリスト。

4. [追加/適用] をクリックします。

## 配信チャネルの修正

既存の配信チャネルを修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、トレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。右ペインにトレーディング パートナのリストが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、トレーディング パートナを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

右ペインに [トレーディング パートナ] ページが表示されます。
2. [コンフィグレーション] タブ、[配信チャネル] タブの順に選択します。使用できる配信チャネルのリストが表示されます。
3. 修正する配信チャネルを選択します。指定した ID と関連付けられたプロトコルのコンフィグレーション フィールドにデータが入ります。

4. 必要に応じてフィールドを修正し、[追加/適用]をクリックします。

## 配信チャネルの削除

配信チャネルを削除するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、トレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [トレーディング パートナ] ノードをクリックします。右ペインにトレーディング パートナのリストが表示されます。適切なトレーディング パートナを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、トレーディング パートナを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

右ペインに [トレーディング パートナ] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブ、[配信チャネル] タブの順に選択します。使用できる配信チャネルのリストが表示されます。
3. 削除する配信チャネルの ID を選択します。[削除] をクリックします。

---

## 4 会話のコンフィグレーション

ここでは、以下の内容を取り上げます。

- 会話のコンフィグレーションの概要
- 会話定義の作成
- 会話定義の修正
- 会話定義の削除

### 会話のコンフィグレーションの概要

トレーディング パートナが特定のビジネス目的のために交換する電子メッセージを **会話** と呼びます。B2B Integration 環境では、以下のような会話が交換できます。

- トレーディング パートナ間のビジネス メッセージ
- 複雑で長期にわたる会話、または短期で終わる会話
- 固有の名前が付けられた会話

どのタイプのビジネス メッセージを交換できるかは、会話に参加しているトレーディング パートナのロールによって決まります。これらのロールは、その他のパラメータと共に **会話定義** で指定されています。会話は、会話定義のアクティブなインスタンスです。詳細については、『**B2B Integration 入門**』を参照してください。

## 会話定義の作成

会話とは、トレーディング パートナ間で交換される一連のメッセージです。メッセージ交換の編成は、コラボレーション アグリーメントの一部である会話定義によって決定されます。

WebLogic Integration B2B Console を使用して会話定義を作成する場合は、Business Process Management (BPM) テンプレートに基づいてワークフローを指定できます。WebLogic Integration B2B Console を更新すると、[会話定義] タブに読み取り専用フィールドが表示されます。このフィールドには、会話定義で参照されている BPM テンプレートが表示されます。

会話定義を作成するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの [会話] をクリックします。[会話定義] ページが表示されます。
2. 右ペイン上部にある [新しい会話定義の作成] を選択します。[コンフィグレーション] の [一般] タブが表示されます。
3. 必要に応じて、次の表に示す各フィールドにデータを入力します。

表 4-1 [一般] タブの会話定義フィールド

フィールド	説明
[名前]	会話定義の名前 (インスタンス作成後は読み取り専用になる)。
[バージョン]	会話定義のバージョン。会話定義の作成時に作成された読み取り専用フィールド。 <b>注意:</b> ebXML の場合、会話バージョンは「1.0」とする。
[ビジネス プロトコル]	この会話定義で使用されるビジネス プロトコル。B2B Integration では、ビジネス プロトコルとして XOCP 1.1、RosettaNet 1.1、RosettaNet 2.0、ebXML 1.0 および cXML 1.1 がサポートされている。
[デフォルトのタイムアウト時間]	トランザクションの有効時間の長さ (マイクロ秒で指定)。指定した時間が経過すると、未処理のメッセージがあっても B2B Integration がトランザクションを終了する。(省略可)。

表 4-1 [一般] タブの会話定義フィールド (続き)

フィールド	説明
[ロール]	<p>選択した会話定義に使用できるロール。ロールを変更するには [設定] ボタンおよび [削除] ボタンを使用する。</p> <p><b>注意：</b> ebXML の場合、ebXML 会話に対しロール、[参加者] と [開始者] があらかじめ定義されており、これらを変更してはならない。</p>
[名前]	<p>新たに定義するロールの名前。</p> <p><b>注意：</b> このフィールドで、デフォルトの ebXML ロール ([参加者] および [開始者]) については編集してはならない。</p>
[説明]	<p>ロールの説明。</p> <p><b>注意：</b> このフィールドで、デフォルトの ebXML ロール ([参加者] および [開始者]) については編集してはならない。</p>
[WLPI テンプレート名]	<p>B2B Integration のプラグインを使用して WebLogic Integration Studio で作成した協調的 (またはパブリック) ワークフローを使用している場合は、このフィールドにワークフローのテンプレート定義名を入力する (大文字と小文字は区別される)。ワークフローのテンプレートまたはテンプレート定義を指定した際に、ワークフローの会話定義名、バージョン、およびロールを指定した場合は、このフィールドにワークフロー名が表示される。</p> <p><b>注意：</b> この [WLPI テンプレート名] フィールドは、WebLogic Integration Studio を使用してワークフローを作成する場合にのみ使用する。</p> <p><b>注意：</b> デフォルトの ebXML ロール ([参加者] および [開始者]) に関しては、このフィールドは使用できない。</p>

表 4-1 [一般] タブの会話定義フィールド (続き)

フィールド	説明
[ロール] (続き)	<p><b>[WLPI オーガニゼーション]</b> Business Process Management テンプレート オーガニゼーションの名前を入力する (大文字と小文字は区別される)。</p> <p><b>注意：</b> この [WLPI オーガニゼーション] フィールドは、WebLogic Integration Studio を使用してワークフローを作成する場合にのみ使用する。</p> <p><b>注意：</b> デフォルトの ebXML ロール ([参加者] および [開始者]) に関しては、このフィールドは使用できない。</p>
[使用可能なロール]	<p>選択した会話定義に使用できるロールのリスト。</p> <p>ebXML 会話については、[参加者] および [開始者] ロールがあらかじめ定義されている。_ これらのロールについては、修正、追加、および削除をしてはならない。</p>

4. [作成] をクリックします。会話定義が、使用できる会話定義のリストに追加されます。

## 会話定義の修正

既存の会話定義を修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーの [会話] ノードをクリックします。[会話定義] ページが表示されます。会話を選択します。
  - 希望する会話のナビゲーション ツリー ノードをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおりに、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます)。

[会話定義] タブが表示され、選択した会話定義の値が表示されます。
2. 必要に応じて、[一般] タブの値を修正します。詳細については、4-2 ページの「会話定義の作成」を参照してください。

3. [適用] をクリックします。

## 会話定義の削除

無効になった会話定義は、**B2B Console** およびリポジトリから削除できます。

**注意：** アクティブな会話アグリーメントで使用されている会話定義は削除できません。

会話定義を削除するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの [会話] をクリックします。[会話定義] ページが表示されます。
2. 削除する会話定義の横にあるチェックボックスをチェックします。
3. [削除] をクリックします。



---

## 5 コラボレーション アグリーメント のコンフィグレーション

企業間（B2B）電子商取引を行っている企業では、コラボレーション アグリーメントを使用してビジネス パートナ間の自動化されたトランザクションを管理します。トレーディング パートナはこれらのアグリーメントを通して、メッセージの送受信に使用する方法、プロトコルなど、対話のさまざまな側面について同意します。

この章では、コラボレーション アグリーメントの作成および管理方法を説明します。この章の内容は以下のとおりです。

- コラボレーション アグリーメントの作成
- コラボレーション アグリーメントのパーティのコンフィグレーション
- コラボレーション アグリーメントの有効化と登録

コラボレーション アグリーメントの詳細については、『*B2B Integration 入門*』を参照してください。

# コラボレーション アグリーメントの作成

コラボレーション アグリーメントを作成するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの [コラボレーション アグリーメント] ノードをクリックします。右ペインに [コラボレーション アグリーメント] ページが表示されます。
2. 右ペインの上部にある [新しいコラボレーション アグリーメントの作成] リンクをクリックします。[一般] タブが表示されます。
3. 必要に応じて、次の表に示す各フィールドにデータを入力します。

表 5-1 コラボレーション アグリーメントの [一般] タブのフィールド

フィールド	説明
[コラボレーション アグリーメント名]	名前を入力する。
[バージョン]	バージョン番号（たとえば 2.0）を入力する。
[説明]	簡潔な説明を入力する。
[会話定義]	コラボレーション アグリーメントを適用する会話定義をドロップダウン リストから選択する。

4. [作成] をクリックします。

新しいコラボレーション アグリーメントが作成されると、そのインスタンスが既存のコラボレーション アグリーメントのリストに追加されます。リストへの追加が完了すると、定義されているパーティが新しいアグリーメントを使用できる状態になります。詳細については、5-4 ページの「コラボレーション アグリーメントのパーティのコンフィグレーション」を参照してください。

## コラボレーション アグリーメントの修正

コラボレーション アグリーメントを修正する手順は、作成する手順とほぼ同じです。(5-2 ページの「コラボレーション アグリーメントの作成」を参照してください)。

コラボレーション アグリーメントを修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [コラボレーション アグリーメント] ノードをクリックします。右ペインにコラボレーション アグリーメントのリストが表示されます。コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、コラボレーション アグリーメントを選択します。

**注意：** このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

指定したコラボレーション アグリーメントの値が定義された [コラボレーション アグリーメント] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[一般] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. 必要に応じて、[一般] タブの値を修正します。詳細については、5-2 ページの「コラボレーション アグリーメントの作成」を参照してください。
4. 変更が完了したら、[適用] をクリックします。

これで、[パーティ] タブにリストされたコンフィグレーション アグリーメントの要素を修正できます。パーティのコンフィグレーションの詳細については、5-4 ページの「コラボレーション アグリーメントのパーティのコンフィグレーション」を参照してください。

コラボレーション アグリーメントのモニタについては、8-20 ページの「コラボレーション アグリーメントのモニタ」を参照してください。

## コラボレーション アグリーメントの削除

コラボレーション アグリーメントを削除するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの [コラボレーション アグリーメント] ノードをクリックします。右ペインにコラボレーション アグリーメントのリストが表示されます。
2. 削除するコラボレーション アグリーメントを選択します。[削除] をクリックします。

コラボレーション アグリーメントのモニタについては、8-20 ページの「コラボレーション アグリーメントのモニタ」を参照してください。

## コラボレーション アグリーメントのパーティのコンフィグレーション

会話定義では、会話に参加しているトレーディング パートナの複数のロールを指定したり記述したりします。コラボレーション アグリーメントのパーティは、会話定義からトレーディング パートナにロールをバインドします。詳細については、『*B2B Integration 入門*』を参照してください。

コラボレーション アグリーメントのパーティを作成するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [コラボレーション アグリーメント] ノードをクリックします。右ペインにコラボレーション アグリーメントのリストが表示されます。コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、コラボレーション アグリーメントを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、B2B Console の [プリファ

## コラボレーション アグリーメントのパーティのコンフィグレーション

レンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

指定したコラボレーション アグリーメントの値が定義された [コラボレーション アグリーメント] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択し、次に [パーティ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. 必要に応じて、次の表に示す各フィールドにデータを入力します。

表 5-2 [パーティ] タブのコラボレーション アグリーメント フィールド

フィールド	説明
[トレーディング パートナ]	会話でのビジネス メッセージの送受信を認可されたビジネス エンティティ。
	<b>[名前]</b> トレーディング パートナ名を入力するか、[参照] をクリックして既存のトレーディング パートナを選択する。
	<b>[パーティ ID]</b> 選択したトレーディング パートナに使用できるパーティ ID をドロップダウン リストから選択する。トレーディング パートナに関連付けることのできるパーティ ID は 1 つのみ。
<b>[配信 チャンネル]</b>	選択したトレーディング パートナに使用できる配信チャンネルをドロップダウン リストから選択する。サービス バインディングごとに 1 つの配信チャンネルを指定できる。
[会話定義]	トレーディング パートナによって実行される一連のメッセージ交換の仕様。
	<b>[名前]</b> [一般] タブで選択されたビジネス コラボレーションを表示する読み取り専用フィールド。5-2 ページの「コラボレーション アグリーメントの作成」を参照。
	<b>[バージョン]</b> 会話定義のバージョンを表示する読み取り専用フィールド。4-2 ページの「会話定義の作成」を参照。
<b>[ロール]</b>	ドロップダウンリストからロールを選択する。詳細については、5-2 ページの「コラボレーション アグリーメントの作成」を参照してください。

表 5-2 [パーティ] タブのコラボレーション アグリーメント フィールド (続き)

フィールド	説明
<b>[このコラボレーション アグリーメントの有効化および登録]</b>	<p>コラボレーション アグリーメントが登録されると、他のトレーディング パートナは直ちにこれを使用してビジネス プロセスを開始することができる。次回の WebLogic Integration の起動時に、コラボレーション アグリーメントの検索および登録が行われる。5-8 ページの「コラボレーション アグリーメントの有効化と登録」を参照。</p> <p><b>注意：</b> コラボレーション アグリーメントを登録して有効にするには、パーティのコンフィグレーションが完了している必要がある。</p>
<b>[使用できるパーティ]</b>	<p>現時点でこのコラボレーション アグリーメントに定義されているすべてのパーティのリスト。このリストからパーティを選択すると、そのパーティの情報と共にこのタブの他のフィールドが伝播される。</p> <p><b>注意：</b> [使用できるパーティ] リストには、トレーディング パートナ名、会話でのロール、およびパーティ ID が表示される。</p>

4. [追加/適用] をクリックします。

## コラボレーション アグリーメントのパーティの修正

コラボレーション アグリーメントを修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [コラボレーション アグリーメント] ノードをクリックします。右ペインにコラボレーション アグリーメントのリストが表示されます。コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、コラボレーション アグリーメントを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、B2B Console の [プリファ

レンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

指定したコラボレーション アグリーメントの値が定義された [コラボレーション アグリーメント] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択します。[パーティ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. [選択したパーティ] リスト ボックスで、修正するパーティを選択します。
4. 必要に応じて、[パーティ] タブの値を修正します。

詳細については、5-4 ページの「コラボレーション アグリーメントのパーティのコンフィグレーション」を参照してください。

5. [適用] をクリックします。

## コラボレーション アグリーメントのパーティの削除

**B2B Integration** リポジトリからコラボレーション アグリーメントのパーティを削除するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [コラボレーション アグリーメント] ノードをクリックします。右ペインにコラボレーション アグリーメントのリストが表示されます。コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、コラボレーション アグリーメントを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

指定したコラボレーション アグリーメントの値が定義された [コラボレーション アグリーメント] ページが表示されます。

2. [コンフィグレーション] タブを選択し、次に [パーティ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. [選択したパーティ] リスト ボックスで、削除するパーティを選択します。[削除] をクリックします。

# コラボレーション アグリーメントの有効化と登録

**注意：** コラボレーション アグリーメントには、登録前に少なくとも 2 つのパーティを定義する必要があります。この要件を満たしていない場合は、コラボレーション アグリーメントにパーティを追加します。手順については、5-4 ページの「コラボレーション アグリーメントのパーティのコンフィグレーション」を参照してください。

コラボレーション アグリーメントが登録されると、直ちに **WebLogic Integration** リポジトリで使用できます。以降は、**WebLogic Integration** が起動するたびに、コラボレーション アグリーメントの検索と登録が行われます。

コラボレーション アグリーメントを登録するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [コラボレーション アグリーメント] ノードをクリックします。右ペインにコラボレーション アグリーメントのリストが表示されます。コラボレーション アグリーメントを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、コラボレーション アグリーメントを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

指定したコラボレーション アグリーメントの値が定義された [コラボレーション アグリーメント] ページが表示されます。

2. [ コンフィグレーション ] タブを選択します。[ パーティ ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
3. [ このコラボレーション アグリーメントの有効化および登録 ] オプションを選択します。
4. [ 追加 / 適用 ] をクリックします。



---

## 6 ロジック プラグインの使用

ロジック プラグインは、実行時にビジネス メッセージをインターセプトして処理する Java クラスです。ロジック プラグインはビジネス プロトコル固有です。各ビジネス プロトコルは、次の 3 つのシステム ロジック プラグインに関連付けられています。

- ルータ ロジック プラグイン
- ルータ エンキュー ロジック プラグイン
- フィルタ ロジック プラグイン

この章では、ロジック プラグインを作成する方法と、**WebLogic Integration** システムを使用してロジック プラグインを変更および削除する方法について説明します。この章の内容は以下のとおりです。

- ロジック プラグインの作成 (非推奨)
- ロジック プラグインの修正 (非推奨)
- ロジック プラグインの削除 (非推奨)

**注意：** ロジック プラグインの表示は、**B2B Console** の [プリファレンス] タブで制御します。詳細については、2-16 ページの「高度なシステム コンフィグレーション機能を表示する」を参照してください。ロジック プラグインが非表示になっていると、ナビゲーション ツリーには表示されません。また、ロジック プラグインのコンフィグレーション タブもすべて非表示となります。

プラグインの詳細については、2-18 ページの「高度なトレーディング パートナのコンフィグレーション オプションの使用」を参照してください。プラグインの作成については、『*B2B Integration ロジックプラグイン プログラミングガイド*』を参照してください。

## ロジック プラグインの作成（非推奨）

**注意：** カスタム ロジック プラグインの使用は、**WebLogic Integration** の今回のリリースで非推奨になっています。カスタム ロジック プラグインに代わる機能についての詳細は、『*WebLogic Integration リリース ノート*』を参照してください。

**WebLogic Integration** で、フィルタ チェーンおよびルータ チェーンにカスタム ロジック プラグインを追加できます。カスタム ロジック プラグインには以下の用途があります。

- フィルタ プラグインを使用して、どのトレーディング パートナまたはロールがメッセージを受信するかを制御できます。
- ルータ プラグインを使用して、メッセージを受信するトレーディング パートナのリストを生成するアルゴリズムを定義できます。

詳細については、2-18 ページの「高度なトレーディング パートナのコンフィグレーション オプションの使用」を参照してください。

1. ナビゲーション ツリーの [ロジック プラグイン] ノードをクリックします。右ペインに [ロジック プラグイン] ページが表示されます。
2. 右ペインで、プラグインのリストの一番上にある [新しいロジック プラグインの作成] リンクをクリックします。[一般] タブが表示されます。
3. [一般] タブで、次の表で説明する各フィールドに新しい値を入力するかデフォルト値を修正します。

**表 6-1** ロジック プラグインの [一般] タブのフィールド

フィールド	説明
[名前]	作成するプラグインの名前を入力する。プラグインの用途を連想させる名前にする。
[説明]	プラグインの簡単な説明を入力する。
[タイプ]	ドロップダウン リストからプラグインのタイプを選択する。[ユーザ フィルタ] または [ユーザ ルータ] が選択できる。

表 6-1 ロジック プラグインの [一般] タブのフィールド（続き）

フィールド	説明
[Java クラス名]	このロジックプラグインの実装を指定する Java クラス名を入力する。
[Java クラスのパラメータ]	Java クラスを定義するパラメータを入力する。
[名前]	追加するパラメータの名前。
[値]	追加するパラメータの値。
[有効なパラメータ]	使用できるパラメータのリスト（ <code>name=value</code> の形式で、名前 / 値のペアとして表示）。

4. 変更が完了したら [作成] をクリックします。

作成と修正の詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

メッセージコンテキスト ドキュメント 構造について、および拡張プロパティを参照するための XPath 式の作成手順については、『*B2B Integration ロジックプラグイン プログラミングガイド*』を参照してください。

## ロジック プラグインの修正（非推奨）

**注意：** カスタム ロジック プラグインの使用は、WebLogic Integration の今回のリリースで非推奨になっています。カスタム ロジック プラグインに代わる機能についての詳細は、『*WebLogic Integration リリース ノート*』を参照してください。

ロジック プラグインを修正するには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行して、ロジック プラグインを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [ロジック プラグイン] ノードをクリックします。右ペインに [ロジック プラグイン] ページが表示されます。このページで、適切なロジック プラグインを選択します。

- ナビゲーション ツリーで、ロジック プラグインを選択します。

**注意：** 2つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティが選択されている場合のみ使用できます。

ロジック プラグインの [一般] タブが表示されます。

2. [一般] タブでロジック プラグインを選択します。指定したロジック プラグインの値が、[一般] タブの各フィールドに表示されます。
3. 必要に応じて、表 6-1 で説明する各フィールドの値を修正します。[適用] をクリックします。

これで、他のコンフィグレーション タブの要素を修正できるようになりました。

ユーザ プラグインの作成と修正の詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

## ロジック プラグインの削除（非推奨）

**注意：** カスタム ロジック プラグインの使用は、**WebLogic Integration** の今回のリリースで非推奨になっています。カスタム ロジック プラグインに代わる機能についての詳細は、『*WebLogic Integration リリース ノート*』を参照してください。

ロジック プラグインを削除するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの [ロジック プラグイン] ノードをクリックします。右ペインに [ロジック プラグイン] ページが表示されます。
2. [ロジック プラグイン] ページで、削除するロジック プラグインを選択します。[削除] をクリックします。

ユーザ プラグインの作成と修正の詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

---

# 7 ビジネス プロトコルのコンフィグレーション

ここでは、以下の内容を取り上げます。

- ビジネス プロトコルのコンフィグレーションの概要
- ビジネス プロトコル定義の表示
- ユーザ定義のフィルタ チェーンおよびルータ チェーンの修正
- XOCP フィルタ式および XOCP ルータ式の修正（非推奨）
- ビジネス プロトコル定義の詳細の表示

詳細については、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

**注意：** XOCP および cXML ビジネス プロトコルは、**WebLogic Integration** の今回のリリースで非推奨になっています。これらのビジネス プロトコルに代わる機能についての詳細は、『*WebLogic Integration リリース ノート*』を参照してください。

## ビジネス プロトコルのコンフィグレーションの概要

電子商取引でビジネス プロトコルというと、企業間ネットワークでのビジネス情報の電子交換を制御する一連のルールを意味します。ビジネス プロトコルは、ビジネス メッセージの構造、メッセージの処理方法、およびそれらを適切な受信側にルーティングするための方法を規定します。**B2B Integration** のトレーディング パートナでは、ビジネス メッセージの送受信のためのプロトコルとして、XOCP、RosettaNet、および cXML を使用できます。

ビジネス プロトコルは、それを実装するロジック プラグインによって定義されます。新しいビジネス プロトコル定義を作成することはできません。これらは、**B2B Integration** リポジトリに格納されています。使用できるビジネス プロトコルを表示したり、ビジネス プロトコル定義をユーザが作成したロジック プラグインにマップしたりできます。

[ビジネス プロトコル定義] タブには、使用できるユーザ定義のフィルタ、ルータ、システム エンコーダ、およびシステム デコーダのリストが表示されます (読み取り専用)。リスト内の項目の順序は、アクティブ化されたシーケンス チェーンまたは順序によって変わります。

# ビジネス プロトコル定義の表示

ビジネス プロトコル定義を修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、ビジネス プロトコルを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [ビジネス プロトコル] ノードをクリックします。右ペインにビジネス プロトコルのリストが表示されます。このページで、適切なビジネス プロトコルを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、ビジネス プロトコルを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます。

ビジネス プロトコルのコンフィグレーション タブが表示されます。

2. [一般] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。次の表に示したビジネス プロトコルについての情報が表示されます (読み取り専用)。

表 7-1 ビジネス プロトコル定義の [一般] タブのフィールド

フィールド	説明
[名前]	ビジネス プロトコル定義の名前。
[説明]	ビジネス プロトコル定義の説明 (読み取り専用)。

表 7-1 ビジネス プロトコル定義の [一般] タブのフィールド (続き)

フィールド	説明
[ビジネス プロトコル ]	<p>このビジネス プロトコル定義で使用されているプロトコルの名前とバージョン (読み取り専用)。本リリースでサポートされているプロトコルは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆ XOCP 1.1 (非推奨)</li> <li>◆ RosettaNet 1.1</li> <li>◆ RosettaNet 2.0</li> <li>◆ cXML 1.1 (非推奨)</li> <li>◆ ebXML 1.0</li> </ul>
[Java クラス名]	<p>選択したビジネス プロトコル定義を実装する Java クラス (読み取り専用)。</p>

これで、カスタム プラグインを修正できます。カスタム プラグインには、フィルタとして定義、使用される Java クラスと、ルータとして定義、使用される XPath 文の両方が含まれている場合もあります。

## ユーザ定義のフィルタ チェーンおよびルータ チェーンの修正

デフォルトでは、組み込みのチェーンであるビジネス プロトコル固有のロジック プラグインは、ビジネス プロトコルのルーティング機能およびフィルタ機能と関連付けられています。カスタム ロジック プラグインは、ルーティングまたはフィルタ処理のいずれかに対して必要に応じて定義および挿入できます。これらのカスタム プラグインを使用すると、ルーティング機能やフィルタ機能だけでなく、さまざまなサービスを実行できます。詳細については、6-2 ページの「ロジック プラグインの作成 (非推奨)」を参照してください。ロジック プラグインの詳しい説明は、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

## 7 ビジネス プロトコルのコンフィグレーション

カスタム ロジック プラグインが挿入されているフィルタ チェーンおよびルータ チェーンを修正するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、ビジネス プロトコルを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [ビジネス プロトコル] ノードをクリックします。右ペインにビジネス プロトコルのリストが表示されます。このページで、適切なビジネス プロトコルを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、ビジネス プロトコルを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます。

ビジネス プロトコルのコンフィグレーション タブが表示されます。

2. [フィルタおよびルータ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。使用できるフィルタおよびルータのリストが表示されます。
3. 適切なコンフィグレーションになるよう、必要に応じてフィルタおよびルータのリストを並べ替えます。タブ上でフィルタおよびルータの名前を移動するには矢印ボタンを使用します。次の表では、有効な値について説明します。

表 7-2 ビジネス プロトコル定義プラグイン

フィールド	説明
[フィルタ チェーン]	新しいフィルタ ロジック プラグインを作成できる。詳細については、6-2 ページの「ロジック プラグインの作成 (非推奨)」を参照してください。
[使用できるフィルタ ロジック プラグイン]	使用できるフィルタ タイプのロジック プラグインがすべてリストされる。
[選択したフィルタ]	指定したビジネス プロトコル定義のアクティブなロジック プラグインがリストされる。

表 7-2 ビジネス プロトコル定義プラグイン（続き）

フィールド	説明
[ルータ チェーン]	新しいルータ ロジック プラグインを作成できる。詳細については、6-2 ページの「ロジックプラグインの作成（非推奨）」を参照してください。
[使用できるルータ ロジック プラグイン]	使用できるルータ タイプのロジックプラグインがすべてリストされる。
[選択したルータ]	指定したビジネス プロトコル定義のアクティブなロジック プラグインがリストされる。

4. フィルタとルータのコンフィグレーションが完了したら [適用] をクリックします。

## XOCP フィルタ式および XOCP ルータ式の修正（非推奨）

**注意：** XOCP ビジネス プロトコルは、WebLogic Integration の今回のリリースで非推奨になっています。XOCP ビジネス プロトコルに代わる機能についての詳細は、『WebLogic Integration リリース ノート』を参照してください。

*XPath* は、XML ドキュメントの処理に使用する XML パターン マッチング言語です。*XPath* 式は、*XPath* 構文を使用しているビジネス メッセージの宛先を指定する文字列です。定義した *XPath* 式は、フィルタ チェーンおよびルータ チェーンと関連付ける必要があります。

フィルタ式を使用すると、メッセージコンテキスト ドキュメントの各部を調べて、そのメッセージを受信側のトレーディング パートナに転送するかどうかを決定できます。*XPath* フィルタ式は、さまざまな選択基準に基づいて **true** または **false** を返します。**false** が返されると、そのメッセージの評価が中止され、受信側には送信されません。

## 7 ビジネス プロトコルのコンフィグレーション

---

XOCP ルータ ロジック プラグインでは、XPath ルータ式によってメッセージコンテキスト ドキュメントの各部が調べられ、別の受信側トレーディング パートナのセットが選択されます。フィルタおよびルータは、前に生成された受信側トレーディング パートナのフィルタおよびルータのセットに上書きされるか、またはそのセットに追加されます。

修正できるのはユーザ定義のロジック プラグインのみです。詳細については、6-2 ページの「ロジック プラグインの作成 (非推奨)」を参照してください。ロジック プラグインの詳しい説明は、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

## XPath 式の作成

XPath 式を作成するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、ビジネス プロトコルを選択します。

- ナビゲーション ツリーの [ビジネス プロトコル] ノードをクリックします。右ペインにビジネス プロトコルのリストが表示されます。このページで、適切なビジネス プロトコルを選択します。
- ナビゲーション ツリーで、ビジネス プロトコルを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます。

ビジネス プロトコルの **コンフィグレーション** タブが表示されます。

2. [XOCP フィルタおよびルータ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。

3. 次の表に示す各フィールドに値を入力します。

表 7-3 ビジネス プロトコル定義の XOCP フィルタと XOCP ルータ

フィールド	説明
[XPath 式]	XPath 式は、メッセージコンテキスト XML ドキュメントに対する実行時のシーケンスで評価される。ドキュメントには、メッセージに関するメタ情報（送受信するトレーディング パートナ、会話情報、バージョン情報など）と共に、メッセージ コンテンツが含まれている。
[タイプ]	<p>[追加] [追加] を選択すると、新しい XPath 式の評価結果がそれ以前の評価結果に追加される。</p> <p>[置換] [置換] を選択すると、XPath 式の以前の評価結果が上書きされる。</p>
[XOCP フィルタチェーン]	このリスト ボックスには、XOCP フィルタ チェーン用にアクティブになっている XOCP 式全体が表示される。フィルタ チェーンとは、特定のシーケンスで接続された一連の XPath フィルタ文。

## 7 ビジネス プロトコルのコンフィグレーション

表 7-3 ビジネス プロトコル定義の XOCF フィルタと XOCF ルータ (続き)

フィールド	説明
[XOCF ルータ チェーン]	このリスト ボックスには、XOCF ルータ チェーン用にアクティブになっている XOCF 式全体が表示される。ルータ チェーンとは、特定のシーケンスで接続された一連の XPath ルータ文。

4. [設定] をクリックすると、新しい XPath フィルタ チェーンが作成されます。チェーン内の文の順序を並べ替えるには、上矢印キーおよび下矢印キーを使用します。
5. [適用] をクリックします。

ロジック プラグインの詳しい説明は、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

## ビジネス プロトコル定義からの XPath 式の削除

ビジネス プロトコル定義から XPath フィルタ チェーンまたは XPath ルータ チェーンを削除するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの [ビジネス プロトコル] ノードをクリックします。右ペインに [ビジネス プロトコル定義] ページが表示されます。
2. [ビジネス プロトコル定義] ページで、削除する XOCF フィルタ または XOCF ルータ が含まれているビジネス プロトコル定義を選択します。ビジネス プロトコル タブが表示されます。
3. [XOCF フィルタ および ルータ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
4. 削除する XOCF フィルタ チェーン または XOCF ルータ チェーンを選択します。[削除] をクリックします。

ロジック プラグインの詳しい説明は、『*B2B Integration 管理ガイド*』の「高度なコンフィグレーション タスク」を参照してください。

# ビジネス プロトコル定義の詳細の表示

フィルタおよびルータのリストには、システムレベルのエンティティとユーザが作成したプラグインが含まれています。エンコーダおよびデコーダは、すべてシステムレベルのエンティティです。修正できるのはユーザ定義のロジックプラグインのみです。詳細については、6-2 ページの「ロジック プラグインの作成 (非推奨)」を参照してください。

ビジネス プロトコル定義についての詳細情報を表示するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行して、ビジネス プロトコルを選択します。
  - ナビゲーション ツリーの [ビジネス プロトコル] ノードをクリックします。右ペインにビジネス プロトコルのリストが表示されます。このページで、適切なビジネス プロトコルを選択します。
  - ナビゲーション ツリーで、ビジネス プロトコルを選択します。

**注意：** 2 つ目の方法は、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます。

ビジネス プロトコルのコンフィグレーション タブが表示されます。

2. [詳細] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。使用できるユーザ定義のフィルタおよびルータのリストが表示されます。システム エンコーダおよびシステム デコーダも含まれています。



---

## 8 B2B Integration のモニタ

ここでは、以下の内容を取り上げます。

- B2B エンジンのモニタ
- トレーディング パートナのモニタ
- トレーディング パートナ セッションのモニタ
- 会話定義のモニタ
- コラボレーション アグリーメントのモニタ

### B2B エンジンのモニタ

B2B エンジンの現在のステータスを確認するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。右ペインに、3つの上位レベル タブ（**[ コンフィグレーション ]**、**[ モニタ ]**、および **[ メモ ]**）が表示されます。
2. **[ モニタ ]** タブを選択します。**[ 一般 ]** タブがアクティブでない場合は、これを選択します。以下のフィールドが表示されます。

表 8-1 B2B エンジンのステータス

フィールド	説明
<b>[ このサーバを起動 &lt; または &gt; このサーバをシャットダウン ]</b>	表示されているリンクをクリックすると、B2B エンジンが起動または停止する。

表 8-1 B2B エンジンのステータス

フィールド	説明
[ステータス]	B2B エンジンの現在のステータス。[実行中]または[非アクティブ]のいずれかとなる。
[永続化]	B2B エンジンの永続性属性の現在の状態。永続性はオンまたはオフのいずれか。永続性がオンの場合、B2B エンジンには、クラッシュ時にエンジンの回復に必要な状態情報を保存する。 永続性がオフの場合は、状態情報を保存しない。したがって、クラッシュが起きても回復は不可能となる。
[アクティベーション時間]	B2B エンジン が最後に起動された時刻。B2B エンジンが起動していない場合は[なし] (該当なし) と表示される。

## B2B エンジンのシャットダウン

B2B エンジンをシャットダウンするには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーションツリーの最上位ノードである [B2B] をクリックします。[コ  
ンフィグレーション] タブが表示されます。
2. 右ペインの [モニタ] タブを選択します。[一般] タブがアクティブでない場  
合は、これを選択します。
3. [このサーバをシャットダウン] リンクを選択します。
4. シャットダウン方法を選択します。

表 8-2 シャットダウン方法

選択肢	説明
[即時]	すべてのアクティビティを直ちに停止する。
[停止]	<p>B2B エンジンをシャットダウンし、トレーディングパートナー セッションのシャットダウンをトリガする。これにより、すべての会話が終了し、すべてのメッセージキューが削除される。</p> <p><b>注意：</b> B2B エンジンのシャットダウン後に、Bulk Loader ユーティリティまたは B2B Console を使用してリポジトリ データをインポートする予定がある場合、シャットダウン方法は [停止] を選択すること。</p>

5. B2B エンジンがシャットダウンします。

## B2B Integration の統計値の表示

B2B Integration の統計値を表示するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーション ツリーの最上位ノードである [B2B] をクリックします。
2. 右ペインの [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。[統計] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。

表 8-3 B2B Integration の統計値

フィールド	説明
[WLI B2B がアクティブになった時間]	B2B エンジンが起動された日付と時刻。
[トレーディング パートナ セッション]	アクティブなトレーディング パートナ セッションの数 (トレーディング パートナは、トレーディング パートナ セッションを開始するとアクティブになる)。リンクをクリックすると、モニタしているトレーディング パートナに関連するセッションのリストが表示される。
[アクティブなコラボレーション アグリーメント]	アクティブなコラボレーション アグリーメントの数。アクティブなコラボレーション アグリーメントとは、有効になっていて登録されているコラボレーション アグリーメント。使用中である場合もある。
[アクティブな会話]	アクティブな会話の数。
[アクティブな配信チャンネル]	B2B Integration で使用できるアクティブな配信チャンネルの数 (配信チャンネルがアクティブであるためには、トレーディング パートナセッション内で少なくとも1つのトレーディング パートナがその配信チャンネルを使用している必要がある)。
[送信したメッセージ]	B2B エンジンの当該インスタンスによって送信されたメッセージの数。
[受信したメッセージ]	B2B エンジンの当該インスタンスで受信したメッセージの数。
[最後に送信したメッセージ]	B2B エンジンの当該インスタンスによって最後に送信されたメッセージの日付と時刻。
[最後に受信したメッセージ]	B2B エンジンの当該インスタンスで最後に受信したメッセージの日付と時刻。

## B2B Integration のログの表示

B2B Integration のログには、B2B エンジンで生成されたすべてのメッセージが含まれています。これらのメッセージの重大度は、FATAL、ERROR、WARNING、INFO の 4 種類です。

B2B Integration のログを表示するには、次の作業が必要です。

1. ナビゲーションツリーの最上位ノードである **[B2B]** をクリックします。[コンフィグレーション] タブが表示されます。
2. 右ペインの [モニタ] タブを選択します。[ログ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。次の表では、[ログ] タブの各フィールドについて説明します。

表 8-4 [ログ] タブのフィールド

フィールド	説明
<b>[ログファイル]</b>	ログファイルの名前とディレクトリを入力する。デフォルトでは、ファイル名が <code>wlc.log</code> 、ディレクトリが B2B エンジンの起動ディレクトリとなる。
<b>[レベル]</b>	ドロップダウンリストを使用して、ログから検索するメッセージの重大度を選択する。以下のいずれかを選択できる。
<b>[すべて]</b>	すべてのメッセージを表示する。
<b>[情報、警告、エラーおよび致命的なエラー]</b>	重大度が INFO 以上のメッセージをすべて表示する。
<b>[警告、エラーおよび致命的なエラー]</b>	重大度が WARNING 以上のメッセージをすべて表示する。
<b>[エラーおよび致命的なエラー]</b>	重大度が ERROR 以上のメッセージをすべて表示する。
<b>[致命的なエラー]</b>	重大度が FATAL のメッセージのみ表示する。

表 8-4 [ ログ ] タブのフィールド (続き)

フィールド	説明
[ ページごとの行数 ]	ドロップダウン リストを使用して、ログから検索するメッセージの数を選択する。以下のいずれかを選択できる。 250 500 1000 5000 ログの最後に到達すると、[Last Page] メッセージが送信される。

## トレーディング パートナのモニタ

トレーディング パートナ セッションおよびトレーディング パートナ パーティをモニタできます。

トレーディング パートナをモニタするには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
- [モニタ] タブを選択します。[セッション] タブおよび [配信チャネル] タブが表示されます。
- [セッション] タブを選択してトレーディング パートナ セッションを表示します。

4. モニタするトレーディング パートナを選択します。このセッションをシャットダウンするには、[このトレーディング パートナ セッションのシャットダウン]リンクをクリックします。

## トレーディング パートナのセッション会話のモニタ

トレーディング パートナのセッション会話の詳細をモニタするには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。すべてのトレーディング パートナ セッションがリストされます。
3. セッションの詳細を表示するには、トレーディング パートナ セッションのリンクをクリックします。
4. トレーディング パートナの会話の数が表示されます。さらに詳細を表示するには会話の数をクリックします。

## トレーディング パートナのアクティブな配信チャネルのリスト

トレーディング パートナのアクティブな配信チャネルの詳細をモニタするには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。[配信チャネル] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。アクティブな配信チャネルがすべて表示されます。
3. 配信チャネルをクリックすると詳しい説明が表示されます。  
配信チャネルの詳細を表示するには、配信チャネルのリンクをクリックします。詳細については、8-9 ページの「トレーディング パートナの配信チャネルのモニタ」を参照してください。

## トレーディング パートナの配信チャネルのモニタ

トレーディング パートナのアクティブな配信チャネルの数をモニタするには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] タブが表示されます。[モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
- すべての配信チャネルがリストされます。[配信チャネル] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。アクティブな配信チャネルがすべて表示されます。
- 次の表に示す詳細を表示するには、配信チャネルへのリンクをクリックします。

**表 8-5** トレーディング パートナの配信チャネル フィールド

フィールド	説明
[この配信チャネルの無効化]	このリンクをクリックすると、選択した配信チャネルが無効になる。
[配信チャネル]	選択した配信チャネルの名前。
[ステータス]	選択した配信チャネルが、アクティブであるかシャットダウンされているかを示す。

表 8-5 トレーディング パートナの配信チャネル フィールド (続き)

フィールド	説明
<b>[トレーディング パートナ セッション]</b>	<p>アクティブなトレーディング パートナ セッションの数 (トレーディング パートナは、トレーディング パートナ セッションを開始するとアクティブになる)。</p> <p>セッション数のリンクをクリックすると、セッションのリストが表示される。詳細については、8-15 ページの「トレーディング パートナの会話のリスト」を参照。</p>
<b>[会話]</b>	<p>このセッション内の現時点までの会話の数が表示される。</p> <p>会話数のリンクをクリックすると、会話のリストが表示される。詳細については、8-15 ページの「配信チャネルの会話のリスト」を参照。</p>
<b>[コラボレーション アグリーメント]</b>	<p>この配信チャネルを使用したコラボレーション アグリーメント。</p> <p>コラボレーション アグリーメント数のリンクをクリックすると、コラボレーション アグリーメントのリストが表示される。詳細については、8-16 ページの「配信チャネルのアクティブなコラボレーション アグリーメントのリスト」を参照。</p>
<b>[送信したメッセージ]</b>	<p>このトレーディング パートナが送信したメッセージの数。</p>

## トレーディング パートナの配信チャネルのシャットダウン

トレーディング パートナの配信チャネルをシャットダウンするには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。

- ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
  3. すべてのトレーディング 配信チャンネルがリストされます。[配信チャンネル] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
  4. 配信チャンネルを選択します。この配信チャンネルを無効にするには、[この配信チャンネルの無効化] リンクをクリックします。

# トレーディング パートナ セッションのモニタ

トレーディング パートナ セッションをモニタするには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。

3. すべてのトレーディング パートナ セッションがリストされます。[セッション] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。
4. トレーディング パートナ セッションを選択します。次の表では、表示される各フィールドについて説明します。

表 8-6 トレーディング パートナ セッションのモニタ

フィールド	説明
[このトレーディング パートナ セッションのシャットダウン]	このリンクをクリックすると、トレーディング パートナ セッションがシャットダウンされる。
[トレーディング パートナ セッション]	このトレーディング パートナ セッションの名前。
[ステータス]	トレーディング パートナ セッションがアクティブであるかどうかを示す。
[開始時間]	現在のトレーディング パートナ セッションが開始された時刻。
[会話]	現在のトレーディング パートナ セッションのアクティブな会話の数。リンクをクリックすると、このセッションの会話のリストが表示される。
[送信したメッセージ]	選択したトレーディング パートナが、現在のセッションにおいて送信したメッセージの数。
[未処理のメッセージ]	未処理のメッセージの数。未処理のメッセージとは、送信済みだが、まだキューに入っていて受信されていないメッセージを指す。このリンクをクリックすると、現在のセッションにおいて未処理のメッセージのリストが表示される。
[最後に送信したメッセージ]	最後のメッセージが送信された日付と時刻。
[最後に受信したメッセージ]	最後のメッセージが受信された日付と時刻。
[最初に失敗したメッセージ]	メッセージの送信が初めて失敗した日付と時刻。

表 8-6 トレーディング パートナ セッションのモニタ (続き)

フィールド	説明
[最後に失敗したメッセージ]	メッセージの送信が最後に失敗した日付と時刻。

## トレーディング パートナ セッションのリスト

トレーディング パートナ セッションをリストするには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] タブが表示されます。[モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。次に、[セッション] タブを選択します。トレーディング パートナ セッションのリストが表示されます。
- トレーディング パートナ セッションの詳しい説明を表示するには、そのセッションをクリックします。トレーディング パートナ セッションの詳細が表示されます。詳細については、8-11 ページの「トレーディング パートナ セッションのモニタ」を参照してください。

## 会話定義の会話のリスト

会話定義の会話をリストするには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [会話] をクリックして [会話] ページを表示し、次に適切な会話定義を見つけてクリックします。

- ナビゲーション ツリーにリストされている会話をクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。

[会話] タブが表示されます。

2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。  
その会話に関連付けられている会話定義がすべてリストされます。
3. アクティブな会話の詳しい説明を表示するには、その会話をクリックします。会話の詳細が表示されます。詳細については、8-19 ページの「会話定義のモニタ」を参照してください。

## トレーディング パートナの会話のリスト

トレーディング パートナの会話をリストするには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
- すべての会話を表示するには、次の作業が必要です。
  - セッションの場合は、[セッション] タブを選択します。リストされたトレーディング パートナセッションをクリックします。
  - 配信チャネルの場合は、[配信チャネル] タブを選択します。リストされたトレーディング パートナセッションをクリックします。
- アクティブな会話の詳しい説明を表示するには、その会話をクリックします。会話の詳細が表示されます。詳細については、8-19 ページの「会話定義のモニタ」を参照してください。

## 配信チャネルの会話のリスト

配信チャネルの会話をリストするには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツ

リーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] タブが表示されます。

2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。つづいて、[配信チャネル] タブを選択します。アクティブな配信チャネルのリストが表示されます。
3. アクティブな配信チャネルの詳しい説明を表示するには、その配信チャネルをクリックします。アクティブな配信チャネルの詳細が表示されます。
4. アクティブな会話の数へのリンクをクリックします。詳細については、8-19 ページの「会話定義のモニタ」を参照してください。

## 配信チャネルのアクティブなコラボレーション アグリーメントのリスト

配信チャネルのコラボレーション アグリーメントをリストするには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。

[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。つづいて、[配信チャネル] タブを選択します。アクティブな配信チャネルのリストが表示されます。
3. 配信チャネルを選択します。配信チャネルの詳細が表示されます。

4. コラボレーション アグリーメントの数をクリックすると、アクティブなコラボレーション アグリーメントがリストされます。

詳細については、8-18 ページの「配信チャネルのコラボレーション アグリーメントの詳細の表示」を参照してください。

## 配信チャネルのトレーディング パートナ セッションのリスト

配信チャネルのトレーディング パートナ セッションをリストするには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。つづいて、[配信チャネル] タブを選択します。アクティブな配信チャネルのリストが表示されます。
3. アクティブな配信チャネルへのリンクをクリックします。配信チャネルの詳細ページが表示されます (詳細については、8-9 ページの「トレーディング パートナの配信チャネルのモニタ」を参照してください)。
4. トレーディング パートナ セッションの数をクリックします。選択した配信チャネルのトレーディング パートナ セッションが表示されます。トレーディング パートナ セッションの詳細については、8-11 ページの「トレーディング パートナ セッションのモニタ」を参照してください。

## 配信チャネルのコラボレーション アグリーメントの詳細の表示

配信チャネルのコラボレーション アグリーメントをリストするには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [トレーディング パートナ] をクリックして [トレーディング パートナ] ページを表示し、次に適切なトレーディング パートナを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーでリストされているトレーディング パートナをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。  
[トレーディング パートナ] タブが表示されます。
- [配信チャネル] タブの [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。アクティブな配信チャネルのリストが表示されます。
- アクティブな配信チャネルをクリックします。配信チャネルの詳細ページが表示されます。
- アクティブなコラボレーション アグリーメントの数へのリンクをクリックします。現在の配信チャネルに関連するアクティブな実行時コラボレーション アグリーメントのリストが表示されます。
- アクティブなコラボレーション アグリーメントへのリンクをクリックします。次の表に示した各フィールドが表示されます。

表 8-7 コラボレーション アグリーメント フィールド

フィールド	説明
[コラボレーション アグリーメント]	選択したコラボレーション アグリーメントの名前。
[バージョン]	コラボレーション アグリーメントのバージョン番号。

表 8-7 コラボレーション アグリーメント フィールド (続き)

フィールド	説明
[開始時間]	現在のトレーディング パートナ セッションが開始された時刻。
[ビジネス プロトコル]	このコラボレーション アグリーメントに使用されているビジネス プロトコル。
[会話定義]	このコラボレーション アグリーメントで使用されている会話定義の名前。
[パーティ]	このコラボレーション アグリーメントに関与するパーティの数。

リスト内のアクティブなコラボレーション アグリーメントについては、8-9 ページの「トレーディング パートナの配信チャネルのモニタ」を参照してください。

## 会話定義のモニタ

会話定義のアクティブな会話の表示には 3 つの方法があります。下記の方法以外の 2 つについては、8-15 ページの「トレーディング パートナの会話のリスト」、および 8-15 ページの「配信チャネルの会話のリスト」を参照してください。

会話定義のタスクをモニタするには、次の作業が必要です。

- 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [会話] をクリックして [会話] ページを表示し、次に適切な会話定義を見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーにリストされている会話をクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。

[会話定義] タブが表示されます。
- 選択した会話定義の [モニタ] タブを選択します。現在アクティブな会話のリストが表示されます。

3. モニタする会話を選択します。次の表では、表示される各フィールドについて説明します。

表 8-8 会話のモニタ フィールド

フィールド	説明
[End this Conversation]	このリンクをクリックすると会話が停止する。
[ 会話 ]	この会話の名前。
[ 開始時間 ]	この会話の開始時刻。
[ 参加者 ]	この会話の参加者の数。このリンクをクリックすると、参加者のリストが表示される。
[ 最後のメッセージ ]	この会話内の最後のメッセージが送信された日付と時刻。
[ 最後の送信者 ]	最後のメッセージを送信したトレーディング パートナの名前。

## コラボレーション アグリーメントのモニタ

コラボレーション アグリーメントのモニタには2つの方法があります。詳細については、8-16 ページの「配信チャネルのアクティブなコラボレーション アグリーメントのリスト」を参照してください。

コラボレーション アグリーメントをモニタするには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [コラボレーション アグリーメント] をクリックして [コラボレーション アグリーメント] ページを表示し、次に適切なコラボレーション アグリーメントを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーにリストされているコラボレーション アグリーメントをクリックします（このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます）。

[ コラボレーション アグリーメント ] タブが表示されます。

2. [ モニタ ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。[ モニタ | 一般 ] タブには以下の読み取り専用フィールドがあります。

表 8-9 コラボレーション アグリーメント読み取り専用フィールド

フィールド	説明
[ コラボレーション アグリーメント ]	選択したコラボレーション アグリーメントの名前。
[ バージョン ]	コラボレーション アグリーメントのバージョン番号。
[ ステータス ]	コラボレーション アグリーメントのステータス。有効になっているかどうか、登録されているかどうかを示す。
[ ビジネス プロトコル ]	このコラボレーション アグリーメントに使用されているビジネス プロトコル。
[ 会話定義 ]	このコラボレーション アグリーメントで使用されている会話定義の名前。
[ パーティ ]	このコラボレーション アグリーメントに関与するパーティの数。

## コラボレーション アグリーメントの有効化

コラボレーション アグリーメントを有効にすると、次回の WebLogic Integration の起動時にコラボレーション アグリーメントが自動的に検索、登録されます。コラボレーション アグリーメントが登録されると、他のトレーディング パートナは直ちにこれを使用してビジネス プロセスを開始することができます。

コラボレーション アグリーメントを有効にするには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - ナビゲーション ツリーで [ コラボレーション アグリーメント ] をクリックして [ コラボレーション アグリーメント ] ページを表示し、次に適切なコラボレーション アグリーメントを見つけてクリックします。
  - ナビゲーション ツリーにリストされているコラボレーション アグリーメントをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲ

「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます。

[コラボレーション アグリーメント] タブが表示されます。

2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。[モニタ | 一般] タブが表示されます。

3. [このコラボレーション アグリーメントの有効化] リンクをクリックします。

コラボレーション アグリーメントのモニタについては、8-20 ページの「コラボレーション アグリーメントのモニタ」を参照してください。

## コラボレーション アグリーメントの無効化

コラボレーション アグリーメントを有効にすると、次の **WebLogic Integration** の起動時にコラボレーション アグリーメントが自動的に検索、登録されます。コラボレーション アグリーメントが登録されると、他のトレーディング パートナは直ちにこれを使用してビジネスプロセスを開始することができます。コラボレーション アグリーメントを無効化することもできます。

コラボレーション アグリーメントを無効化するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。

- ナビゲーション ツリーで [コラボレーション アグリーメント] をクリックして [コラボレーション アグリーメント] ページを表示し、次に適切なコラボレーション アグリーメントを見つけてクリックします。
- ナビゲーション ツリーにリストされているコラボレーション アグリーメントをクリックします（このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます）。

[コラボレーション アグリーメント] タブが表示されます。

2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。[モニタ | 一般] タブが表示されます。

3. [このコラボレーション アグリーメントの無効化] リンクをクリックします。

コラボレーション アグリーメントのモニタについては、8-20 ページの「コラボレーション アグリーメントのモニタ」を参照してください。

# コラボレーション アグリーメントの登録解除

コラボレーション アグリーメントが登録されると、他のトレーディング パートナは直ちにこれを使用してビジネス プロセスを開始することができます。コラボレーション アグリーメントを有効にすると、次回の **B2B Integration** の起動時にコラボレーション アグリーメントが自動的に検索、登録されます。コラボレーション アグリーメントの登録を解除することもできます。

コラボレーション アグリーメントの登録を解除するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。

- ナビゲーション ツリーで [コラボレーション アグリーメント] をクリックして [コラボレーション アグリーメント] ページを表示し、次に適切なコラボレーション アグリーメントを見つけてクリックします。
- ナビゲーション ツリーにリストされているコラボレーション アグリーメントをクリックします (このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、**WebLogic Integration B2B Console** の [プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます)。

[コラボレーション アグリーメント] タブが表示されます。

2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。[モニタ | 一般] タブが表示されます。

3. [このコラボレーション アグリーメントの登録解除] リンクをクリックします。

コラボレーション アグリーメントのモニタについては、8-20 ページの「コラボレーション アグリーメントのモニタ」を参照してください。

## コラボレーション アグリーメントのアクティブ化

新しいコラボレーション アグリーメントは、**WebLogic Integration** を再起動すると自動的にアクティブになります。**WebLogic Integration** を再起動することなく、コラボレーション アグリーメントを動的に追加することも可能です。

コラボレーション アグリーメントを動的にアクティブ化するには、次の作業が必要です。

1. 以下のいずれか 1 つを実行します。
  - 既存のコラボレーション アグリーメントのリストを表示するには、ナビゲーション ツリーの [コラボレーション アグリーメント] ノードをクリックします。表示されたリストからコラボレーション アグリーメントを選択し、[次へ] をクリックしてその他の入力項目を表示します。または、検索機能を使用して特定のコラボレーション アグリーメントを探します。[コラボレーション アグリーメント] リンクをクリックします。
  - ナビゲーション ツリーにリストされているコラボレーション アグリーメントをクリックします（このオプションは、2-17 ページの「ナビゲーション ツリーでのエンティティの表示」で説明しているとおり、[プリファレンス] タブでナビゲーション ツリー オプションの [表示] エンティティがチェックされている場合のみ使用できます）。
2. [モニタ] タブがアクティブでない場合は、これを選択します。[モニタ | 一般] タブが表示されます。
3. [コラボレーション アグリーメントの登録] をクリックします。

コラボレーション アグリーメントのモニタについては、8-20 ページの「コラボレーション アグリーメントのモニタ」を参照してください。

# 索引

## B

### B2B Integration

- コンフィグレーション 2-1
- パラメータ、定義 2-2

## C

### cXML バインディング

- トレーディング パートナのコンフィグレーション 3-15

## R

### RosettaNet 1.1 バインディング

- トレーディング パートナに対する 3-16

### RosettaNet 2.0 バインディング

- トレーディング パートナに対する 3-19

## W

### WebLogic サーバ名 2-2

## X

### XOCP バインディング

- トレーディング パートナ使用のコンフィグレーション 3-22

### XPath フィルタおよびルータ

- トレーディング パートナのコンフィグレーション 2-18
- ビジネス プロトコル定義から削除 7-8

## い

### 印刷、製品のマニュアル viii

## え

- エクスプローラ
  - ナビゲーション ツリーを参照
- エクスポート
  - 範囲 2-10
- エンコード 2-11, 3-3

## か

### 会話

- トレーディング パートナのリスト 8-15

### 会話セッション

- トレーディング パートナのモニタ 8-7

### 会話定義

- 会話のリスト 8-13
- コンフィグレーション 4-1

### 削除 4-5

### 作成 4-2

### 修正 4-4

- トレーディング パートナのモニタ 8-15

### モニタ 8-22

### カスタマ サポート情報 ix

### 管理コンソール

### 開始 1-3

### ログオフ 8-3

### 関連情報 ix

## け

### 検索 1-6

## こ

### コマンド

- コンテキスト メニュー 1-4

## コラボレーション アグリーメント

アクティブ化 8-24

コンフィグレーション 5-1

削除 5-4

作成 5-2

修正 5-3

登録 5-8, 8-24

登録解除 8-23

登録済み 8-4

パーティ

コンフィグレーション 5-4

削除 5-7

修正 5-6

無効化 8-22

有効化 5-8, 8-21

コラボレーション アグリーメントの登録  
5-8

コラボレーション アグリーメントの有効  
化 5-8

コンソール

開始 1-3

ナビゲーション 1-4

ログオフ 8-3

コンソールのパフォーマンス

ナビゲーション ツリー表示 1-4

コンテキスト メニュー

ポップアップの使用 1-4

コンフィグレーション オプション

高度な 2-18

## さ

削除

会話定義 4-5

サーバ

プロキシの定義 2-5

## し

実行時パフォーマンス

永続性 1-3

確認された配信 3-22, 3-25

メッセージの履歴 3-22, 3-25

証明書

削除 3-13

トレーディング パートナのコンフィ  
グレーション 3-8

## す

ステータス

モニタ 8-1

## せ

セキュリティ、*証明書*を参照

## た

大規模メッセージ サポート 2-3

## て

テクニカル サポート **ix**

データ

リポジトリのインポート 2-5

リポジトリのエクスポート 2-9

転送プロトコル

削除 3-31

修正 3-30

新規作成 3-29

トレーディング パートナのコンフィ  
グレーション 3-28

## と

統計値

表示 8-3

登録解除

コラボレーション アグリーメント  
8-23

登録済みコラボレーション アグリーメン  
ト 8-4

ドキュメント交換 ID

トレーディング パートナのコンフィ  
グレーション 3-14

トランザクション レベル 2-8  
設定 2-9  
トレーディング パートナ  
cXML バインディングの使用 3-15  
RosettaNet 2.0 の使用 3-19  
RosettaNet 1.1 の使用 3-16  
XOCP のコンフィグレーション 3-22  
XPath フィルタおよびルータ、コン  
フィグレーション 2-18  
オプション、高度な 2-18  
会話セッション、モニタ 8-7  
拡張プロパティのコンフィグレーション 2-20  
コンフィグレーション 3-1  
削除 3-5  
作成 3-2  
修正 3-4  
転送プロトコル、コンフィグレーション 3-28  
ドキュメント交換 ID、コンフィグ  
レーション 3-14  
配信チャネル、コンフィグレーション 3-32  
配信チャネル、モニタ 8-9  
モニタ 8-6, 8-11  
トレーディング パートナの拡張プロパ  
ティ  
コンフィグレーション 2-20

## な

ナビゲーション ツリー  
項目を表示 2-17

## は

配信チャネル  
コンフィグレーション 3-32  
削除 3-34  
修正 3-33  
トレーディング パートナのモニタ 8-9  
モニタ 8-9  
パーティ ID

削除 3-7  
修正 3-7  
新規作成 3-5  
トレーディング パートナのコンフィ  
グレーション 3-5  
パフォーマンス  
確認された配信 3-23  
コンソール 1-4, 2-17  
実行時 2-17  
パラメータ  
定義 2-2

## ひ

ビジネス トランザクション  
モニタ 8-20  
ビジネス プロトコル  
定義、XPath フィルタおよびルータの  
削除 7-8  
定義、コンフィグレーション 7-1  
定義の詳細、表示 7-9

## ふ

フィルタおよびルータ  
トレーディング パートナ XPath のコ  
ンフィグレーション 2-18  
ビジネス プロトコル定義から削除 7-8  
プラグイン、ロジック プラグインを参照  
[プリファレンス]  
設定 2-13  
プロキシサーバ  
定義 2-5  
プロトコル  
ビジネス プロトコルを参照

## ほ

ポップアップ コンテキスト メニュー  
使用 1-4

## ま

マニュアル入手先 viii

## む

無効化

コラボレーション アグリーメント  
8-22

## め

メニュー

ポップアップ コンテキストの使用 1-4

[メモ] タブ

使用 1-7

## も

モニタ

B2B 統合ステータス 8-1

会話定義 8-22

コラボレーション アグリーメント  
8-20

トレーディング パートナ 8-6

トレーディング パートナ セッション  
8-11

トレーディング パートナの会話セッ  
ション 8-7

トレーディング パートナの配信チャ  
ネル 8-9

## ゆ

有効化

コラボレーション アグリーメント  
8-21

## り

リポジットリ

エクスポートのフォーマット 2-12

エクスポート範囲の選択 2-12

データのエクスポート 2-9

## る

ルータ

ビジネスプロトコル定義から削除 7-8

## ろ

ログ

表示 8-5

ロジック プラグイン

コンフィグレーション 6-2

削除 6-4

作成 6-2

修正 6-3